大正十三年十一月廿二日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正十五年一月三十日印刷納本　大正十五年二月一日發行

婦人運動

第四卷

二月號

職業婦人社發行

志垣寛著

學園に芽む

四六判四百餘頁 總布裝
定價二圓五十錢送料廿錢

日本で一ばん小さくまた一番新しい學校と言はれる東京郊外の一私立小學校を中心に、現代日本の全教育界を背景としてこの物語は展開する。

主人公純二はこの學園創設者の一人であり同時に學園教育の主務者であるのだが、大震災に愛妻愛子を失ひ、母と共に教育を戀ひ教育を妻とし子として生きてゐる。純二をめぐつて學園に多くの女性が往來するが中に、美貌にして米國歸りの若き母さ、婦人運動の選手であり新女性の典型である同學園の女教師と而して主人公純二との間に、戀にして戀にもあらず、友情に似て友情を超えたる不可思議なる性の苦悶が苦悶される愛の葛藤を卒直大膽に著者一流の輕快なる筆に描く。

そこには現代教育界のパノラマが開示されるかと見れば新教育の根本思想が語られる、そこには、性愛と教育愛と人間愛と古き傳統と新しき憬がれとが渦巻く。家族生活と社會生活と個人生活と相互のギャップとそれが織りなす灰色の地幕が織り込まれる。教養ある現代男女の惱みと喜びと望みが遺憾なく現はれる。現代人ことに若き男女の教育者たちの胸奥にひしひしとこたへる驚くべき力がこの創作の中に包まれてある。

著者は名にしおふ新教育運動の選手であり、同時に教育界きつての文藻豊かな創作家である。今、此の一篇を殘して歐洲に旅立つたが、この長篇創作「學園に芽む」の一篇は、恐らく著者をして我が文壇に尊貴な一地位を與へるであらう。愛讀を俟つ。

東京神田區淡路町二ノ三
振替東京五二九七番

萬生閣

今月は、原稿のあつかひ方も組み方も變へてみました。どんなものかしら。校正をやり乍らいまもMさんと話し合つたことですが、二十一行づめでは少し讀みづらさうですね。失敗した！と後悔をしてゐます。

讀者からいたゞくいろんなお手紙を、自分だけがひとりで讀んでゐるのが惜しいやうな氣がして、今月は、その中の四五通を內證で披露させてもらひました。かういふ風に、深く惱み、よく考へ、强く求めながら、工場に、家庭に、事務室に、名もなくかくれてゐられる方が今や非常に多いのであります。

これだけの婦人が（と云つても、私の知つてゐる方だけでも外に未だ澤山ありますが）心を一つにして、私たちの問題のまへに力を協せて闘つてゆくとしたら、それだけでも隨分大きい力となつて社會を動かしてゆくことが出來る！と私は信じます。更にもし、一人が一人づゝ、片方の手をさしのべて、未だ無自覺にゐる友人の手をとつてひきあげてゆくとしたら！―――

私たちのまづなさねばならない、又私たちに出來る仕事としては、實に、そこいらから初められなければならないのではないでせうか。

木に依つて魚を求むるの愚をいたしますまい。いたづらに天上の星を追ひますまい。まづ足もとから。三千五百萬の女子隣人と共に一步、又一步と進んでゆきたいものであります。

私があんまりいそがしく、不規則に働きつゞけてゐるので、お前ほど、何か外の仕事を――內職の紙袋はりでもいゝ、それだけ働いたら、かなりな收入になるだろう。と、よく云はれてゐます。實際、私はずい分ムリをつゞけて働いてゐるのですが、內職の紙袋はりの工賃はおろか、雜誌の經營は相變らず苦しいのですから、いゝ年をして、四年もつゞけて來て、と、考へると恥しくなります。

それでも、一人また二人と、あちこちに見出されてゆく力强い友人の數が殖えてゆくのは、せめてもの私の誇り、といふものです。

原稿募集!!!

どうぞ、あなたの御感想を書き送つて下さい。歌や、創作や、飜譯物も結構です。なかなかいゝものを書く女の人が多いぢやありませんか、と、よくあちこちで先輩から賞められます。編輯者にとつて一番うれしいことです。

誌代はすべて前納にし下さい。

壹部 貳拾五錢（郵稅五厘）
半年分（郵稅共）壹圓四拾錢
壹年分（郵稅共）貳圓八拾錢

前納誌代送金法

誌代は必ず前金の事。
送金は振替で願ひます。
誌代の受取證は別に出しません。雜誌發送を以てこれに代へます。

大正十五年一月卅日 印刷納本
大正十五年二月一日 發行
發行編輯印刷人 奥むめお 東京外蒲田町女塚二四七番地
印刷所 單式印刷合資會社 東京市本鄉區元町二丁目四一 電話 小石川二三九三番
發行所 職業婦人社 東京市外蒲田町女塚二四七番地 振替東京六四一六〇番 電話小石川二三九三番



（巻頭言）

果して何人の罪か？

府下代々幡町幡ケ谷一五四三高橋與吉は土方であるが、妻はるとの間に四人の子供があるところへ、去年の暮に又女の子が生れ、貧しい生活が一層苦しくなつたので、中の子供二人を郷里の實家にあづけたが、それでも中々苦しいので産後二ケ月に滿たない妻も女人夫として働くことになつた。

去十七日、赤ン坊に風邪でも引かせてはといふ母心から、アンカに寢かせて、八つの長男と五つの三男に番を云ひつけて働きに出た。二人の子供が外の遊びに氣をとられてゐる間に、内では、アンカの火が蒲團に移つて、赤ン坊は生不動となつて口から泡をふきながら死んでゐるのを、近所のおかみさん達に發見された。母親は仕事先きから呼び戻されて、泣く泣くケイサツに引かれて行つた。

署長の話では、過失致死罪として檢事局送りはまぬがれまいといふこと。

彼女は、自分の子供をむざんにも燒殺した上に、恐ろしい罪名の下に囹圄の身とならねばならないであらうが、果してこれは何人の罪であらうか。

彼女は生きるためには働かなければならない。而して働くためには、その愛兒をみるわけにはゆかない。

私はことばを重ねて云はう。これは果して何人の罪であらうか。

時評

今度の議會と諸政黨の關係 婦人會聯合の傾向について

奥むめお

今議會と諸政黨

日本の諸政黨の綱紀紊亂問題は、いつも議會の年中行事で、いまさらめづらしいものでもないが、先頃未だ休會中に田中政友會總裁の三百萬圓問題で一騒ぎあつたが、議會が開かれると早々、今度は政友會のある代議士が政府と三菱との醜關係や、ある炭坑を滿鐵が不當な買收をしたことなどについて、政府の綱紀紊亂を摘發した。

しかし今更らしく、そんなことをかつぎ出す迄もなく、要するに日本のいまの政黨はみな同じやうに、ブルジョアーの財閥を背景にして立つてゐるので、普通に三菱は憲政、三井は政友、本黨は大倉と云はれてゐるが、これはほんの一通りの分野で三井が憲政會に金を出す事もあれば三菱が政友會に金を出す事もある。つまり相方が互に其時々の利害問題で握手するのであるから、これこれにきまつてゐる、と云ふ事は出來ない。

かやうに日本の政黨は凡て所謂ブルジョアーの政黨であるから、其綱領を見ても、どれもこれも同じやうなもので、その離合集散なども、政權のちがひからと云ふよりも、選擧費の出處の問題、或は親分子分の關係で、政治を飯の種にしてゐるやうなものである。だから普通の黨員である院外團や陣笠代議士などは、黨の根本政策とか、主張と云ふものには事實上殆んど何の發言權もなく、たゞ黨の最高幹部とか領袖とか云ふ者が、何處からともなく金權に結びついて作つて來た巨額の金を分けて貰つて、それを選擧費にあて、又その地位が齎す役德で生活をしてゐるのである。

從つて、一黨の總裁になる者はいづれもこの巨額な金のツルを自分で持つてゐるものでなければならないのである。

今度の本黨の分裂なども、中橋氏對床次氏の合同、非合同に就ての以前からのアツレキがあつた事は須知の事實だが、その裏面には、中橋氏がモシ解散にでもなつたら、自分が總裁でもないのに床次の下で黨の選

學費を出さねばならない事を馬鹿々々しく思つた事も、彼の決心を固くさせた理由だといはれてゐる。
　又消息通の話では、床次氏があれ程合同派に對して脈を强くしたのは三菱が憲政會へ餘り深入し過ぎた結果、より以上深入する事の危險を恐れて、本黨へも幾らか出す默契が出來た事が一つの原因だと云はれてゐる。無論本黨の分裂は床次氏對田中氏其他の複雜な原因が、表向の主要な原因であつた事は云ふまでもないが、新聞紙の傳ふところでは、例の革新クラブの殘黨が身を寄せてゐる、既成政黨の中では、最も新進である筈の新政クラブが純資本黨を標傍してゐる實業同志會と合同しさうだと云ふ事であるが、これなども、眞僞は保證しがたいが、少し立ち至つて考へると、表面では如何にも民衆の味方のやうな顏をしてゐるが、何しろ金の問題で、問題で、犬養氏に見限られた連中の事であるから、金の點では心配はないが、交渉團体として未だ頭數の上で弱點のある同志クラブと全然因緣のない話でもない。尤も、さうなれば新政クラブの方でも、立場の上から、どうしても同志會と一諸になれない。いはゆる少數新人が飛び出すであらうと考へられる。
　かやうに現在の政黨は、一般民衆とその利害を異にしてゐる、ブルジョアの代表機關である上に、樞密院とか貴族院など云ふ封建的勢力と結びついて出來てゐるのであるから、それが民衆、即無產階級には全然反對の立場に立つてゐる事は云ふまでもない事で、新しく生れやうとする無產政黨は、それ等の一切の合同機關に對抗して、永い間無視されてゐた一般民衆の利益を保證するために生れるべきもので、この困難な仕事を進めてゆくためには、日本に於ては未だそれ程數に於て組織化されてない組合の運動者や、小數の所謂思想家達の運動として、一般民衆の頭の上をす通りさせてしまふやうな事があつてはならないと思ふ

婦人會聯合の傾向に就て

　東京聯合婦人會は、時代に順應するためにその組織を改めて、これからは、婦人問題を標傍するいろんな團体を勸誘して、聯合會として一致團結させ、運動を東京中心から全國的に及ぼすことゝなつた。又關西に於てもそれと動機を同じうした、關西聯合婦人會が新しく大阪を中心として生れて、主として關西婦人團体を聯合して活躍する事になつた。
　凡ての運動が大きな組織的機關を持たなければならない今日、殊にさ

うした方面の團体的訓練に缺けるところの多い婦人の立場としては、單にさうした團体が生れ、活動を始めると云ふ丈けでも、悦ぶべき現象である事は云ふまでもないが、過去の經驗から見て、苦言を呈するならば、さうした團体は、ともすると、單に組織化すると云ふ事大病的な婦人の缺點が禍ひして、その構成分子である個々の婦人團体の連絡や、意志の疏通を缺いて、結極、名前ばかりの多數の會員を持つてゐるといふだけで、何の活動も出來ないでしまふことが多いといふ點である。

　云ふまでもなく、その團体が大きければ大きい程、それを統一し、その活動を具体化することの困難な事はいふまでもないが、これを現實的にする一策としては、單に今までのやうな、人道とか、博愛とか、向上とか、人類の平和とか云ふやうな抽象的なお題目をあげて漠然と叫ぶよりも、もつと具体的なこと、われわれの日常生活に關係の深い卑近な仕事を一つ一つとえらんで、解決してゆくことに力をあはせるのでなくてはいけないと思ふ。

　例へば婦人參政權の問題なども、も、その具體的な運動は、參政權の求を専問とする團体に讓るとしてもせめて、其等の聯合婦人會の大きな名で、政府、各政黨に警告を發したり、その責任ある言質をとつて社界に發表したりする事も一つの方法であるだらうし、其他、兒童保護問題、母性保護問題、婦人に關する工場衛生問題、婦人賣買問題等に就いても、一歩一歩、何等かの方法によつてこれを政府に迫るなり、社會の輿論に訴へるなり、數へ來るならば聯合婦人會の名で、出來さうな仕事はたくさんある。

（四十六頁ヨリ）

◇思ふに貴族階級の一つの誇りは、働かない事であつた。其爲に奴隷が在る事だつた。そこに中流階級が在る。彼等は簡素と勤勉を主義とし、健全な社會の組み立ては、唯、中流階級の在る爲にのみ維持されて居た。もちろん其下に過度に働かねばならぬ苦しい下層階級はあつた。

◇時代病とは、この健全な中流階級の思想が頽廢して、貴族階級の間違つた生活に大移動をしやうとする近代の傾向である。先驅をつとめるものはいつも消費享樂者たる女性である。云はば全生活に於る「奥樣病」である。

◇パリイ交際界の一女王が跛を隱す着物を着たら跛ひきが一代の流行になつた。然し働く美徳と反對な此時代病は首相夫人の美德でもどうもされぬ程深い。

無産政黨と婦人の要求

山川菊榮

このやうな不合理な壓迫に對して反抗する事も出來ぬ女性に、どうして一層宏大な範圍にわたる戰線への參加が望まれよう。家庭においてなんらの個人的自由をももたずに滿足してゐる女性は、工場でもそれを要求しようはずがない。私はあの封建時代の奉公人を去ること遠からぬ寄宿舍制度の奴れい的生活が、今日まで維持されてゐる主觀的な原因としては、女工の大部分が今なほ家族制度の因習にとらはれて、個人的自由を要求することを知らないからだと解してゐる。

五　教育及職業の自由

「總ての教育機關および職業に對して女子（及び植民地民族）の權利を（内地）男子と同等にすること。」

教育機關とは單に高等教育の機關を意味するものでなく、小學より大學に至る、一切の教育機關を意味し、同時に共學の權利をも意味してゐる。もち論教育を無料にすることは必要であるが、それは別問題となるので、こゝではわざと觸れずにおく。無産階級の婦人は小學程度の教育に終る者が多く稍々の所で中學教育をうけるにすぎないが、男女の教育程度の相異は、女子の自覺と活動を妨げることがはなはだ大きい。故に小中學における男女同等の教育、または共學の權利の要求は、高等教育機關の開放より以上に、無産階級の女子にとつての急務である。

次に、職業の自由についてあるひは今日既に資本家が賃銀の廉い婦人を雇ふて男子勞働者を驅逐せしめつゝある事實を以て、職業の自由と混同する人がないとは限らぬ。しかしこれは問題の性質を全然見誤まつてゐるものである。資本家が婦人や支那人朝鮮人を好んで雇ふのは男子と同等の人格を認めての上ではない。却つてその反對に、不同等と認めるからこそ、賃銀が廉くてす

めばこそ、雇ふのである。もし男女共通の賃銀率が採用せられたならば、資本家はその中で最も能率の高い勞働者を雇ふであらうが、その場合婦人が、男子を驅逐するかは疑問である。

現に婦人の競爭によつて男子が惱まされるのは、知識や技術を要せぬ不熟練勞働の方面だけであつて、それ等を要するところの多少高級の職業ないし作業に至つては婦人は全然競爭する資格のないことはいふまでもない。そこで婦人を永久に不熟練工に留らしめぬためには、せめてこれに男子と同等の教育または職業的訓練を與へる必要がある。しかるに現在においてはその方法は全く講ぜられてゐないので、婦人、不熟練工として極度にさく取されてゐるのである。

更に上の婦人勞働保護の諸項に示された通り、一方で婦人雇ように關する制限が嚴密になり、殘業、夜業、危險作業等に婦人を使用することを禁ぜられるに隨ひ、他方婦人にとつて一層適當な、一層有利な職業の道を開いておくことが必要である。しかるに婦人が現在のまゝの不熟練工に留まつてゐたなら、どうして多少の知識や技術を要する一層有利な仕事につくことが出來ようか。そこで教育及び職業の自由を要求する必要が一層痛切となつて來るのである。

しかし吾々は婦人が、やすい賃金を以て男子の職業を奪ふことにはあくまで反對する。そこで一方では教育及職業の自由を要求すると同時に、他方では同一の勞働に對するに同一の賃銀率を要求することによつて、その危險を防いでゐるのである。婦人は奴れいとして、男子の職を奪うて資本家のふところを肥さうといふのではない。男子と對等の人間として、同一賃銀率を要求しながら、職業の門戸開放を要求するのである。そしてこれを男子勞働者に對してゞなく、ブルジヨア社會に對して要求してゐるのである。

六　標準生活賃銀の問題と男女同賃問題

男女同賃問題は、婦人勞働者の數が非常に多く、かつ盛んに男子の勞働領域に食ひ込んでゆく日本では、特に重要な要求であるし、昨今のように失業者の多いときには、男子の失業を防ぎ、その賃銀低下を食ひ止める意味でも極めて重要な意味を持つてゐるのである。同一勞働に對する同一賃銀の要求は最も保守的な組合から、最も革命的な組合まで、期せずして一致を見てゐるほど、それほどに根本的な無產階級的要求であり、全ての國々の

勞働組合運動に共通の、一貫したプロレタリヤの傳統的政策である。これが如何に至當な、そして痛切な要求であるかはこゝにくどく說明するまでもない。

婦人勞働の競爭を防ぐために、新たにある產業に婦人が喰込んで來る場合、男子組合員が婦人のため、また自己のために『同一勞働に對する同一賃銀』を要求して成功した例もあり、曾ては專ら婦人排斥の手段をとつたヨーロッパの組合が、今日では政策を一變してこの『同勞同賃』の要求の下に男女が提携して戰つてゐる事實を知らない者はあるまい。婦人の賃銀の低廉なることが單なる社會的習慣の結果に過ぎないので、團結の威力で改められることは右の事實に照らしても明かである。

七　結婚、妊娠、分娩等のために婦人を解雇しないこと

次に、

『結婚、妊娠、分娩等のために婦人を解雇することを禁ずること』といふ條項は、母性保護も行はれ婦人の雇傭條件がむづかしくなるにつれて、資本家は結婚分娩等の理由により、婦人を解雇しやうとするは必然であるから之れを防ぐ必要から設けたもので、極めて至當な要求であると思はれる。

次に母性保護に關する條項、即ち

イ、分娩前八週間及び分娩後八週間の休養及びその期間の賃銀全額支拂

ロ、授乳中の勞働婦人のためには休憩室を提供し、三時間毎に三十分以上の休憩時間を與ふること

ハ、無產者の分娩費用及び幼兒を有する母親の生活費の國庫負擔

に關しては何らの異論もないことゝ考へるので、特に批評の必要をみとめない。

八　公娼廢止の問題

最後に公娼廢止の問題については、これは矯風會一派が多年主張し來つた所であるが、何等の考慮も加へられずに葬り去られぬとも限らない。けれどもこの問題はその本質において無產階級婦人の人身權擁護の問題であり婦人を商品とする制度の可否如何の問題であることを冷靜に考へてもらひたい。

日本勞働組合評議會の行動綱領の中には、『人身賣買親方制度その他野蠻なる勞働制度の廢止』といふ項目が揭げられて居る。日本の公娼制度はある程度まで、この

項目の內容にがい當して居る。異るところは、この場合には强制されるものが『勞働』であるに反しかの場合には『賣淫』である點である。もし賣淫が勞働の一種とみなされ得るならば、吾々はこの評議會案の項目の中に『公娼をも含む』と註を容れるだけで濟まされるはずである。監獄部屋の勞働を非としながら監獄部屋の賣淫を可とする如何なる理由を見出すことが出來ようか。そればかりでなく、公娼の場合には、强制檢黴といふ、婦人、否な全人類の人間性に對する最大の侮辱、最大の人權じゆうりんが伴ひ、かつ國家權力を以てこれ等一切のことが保護されて居るのである。强制檢黴が花柳病豫防法點に何等の效もないことは、多くの專門醫家のしばしば證言した所で、內外におけるその問題についての實例や統計を殊更掲げるにも及ばぬことである。が假にそれが多少有效であるとしても、私は人權擁護の見地から絕對にこれに反對をする。これが社會的必要を信ずる者は、女子ならば自分自身强制檢黴を行はれる場合を考へるがよい。男子ならばよその婦人でなく、自己の妻や娘がそれを行はれるものとして考へて見るがよい。かくの如き人權じゆうりんの極致に對してさへもなほかつ社會的必要

ブルジョア的社會にとつての必要といふ假定の下に吾々は反逆してはならぬのであらうか。吾々は娼妓の前身が過半數は女工であることを知つてゐる。吾々の戰友であり同志であるべき人々を、ブルジョア社會の淫とうの犧牲とするために、そして遊冶郎を保護するために設けられた檢黴制度　實にいかなる屈辱をも屈辱と感ぜぬほどに虐げられた無產階級の女性のために抗議することが、センチメンタルとして一蹴されるならば、無產者解放運動を支持する一切の主觀的な力は、センチメンタルとして一蹴せらるべき性質のものである。

けれどもプロレタリヤの道德、プロレタリアの良心はこれを是認するものでないことを私は固く信じてゐる。前にもいつた通り、公娼廢止の問題は、本質的には無產階級婦人の人身權擁護の問題であり、婦人を國家公認の商品とすることの可否の問題であつて、花柳病豫防の立場からこれを論ずることも的外れであり、更にまた、秘密裏に存在する賣淫制度が公娼廢止の最も解決し難い問題として殘ることも（資本主義の存續する限り）この問題とは直接關係がないことを記憶してゐてもらひたい。

婦人部提案の『公娼全廢』の意味は、單に遊廓制度――最も野蠻な封建的賣淫制度――の廢止を意味するものでなく、すべて一定の女子に强制檢黴を施し、これに鑑

札を與へて、賣淫を國家公認の業として認可する制度の廢止を意味するもので、集娼制度たると散娼制度たるとを問はぬのであることも覺えてゐなければならぬ。

歐米諸國においては、公娼廢止は、無產政黨をまたずに、ブルジョア政黨の手によつてなされた。けれども日本の場合は、ブルジョア政黨が、その封建的性質のために、かくの如き封建的人身賣買制度、賣淫を目的とする奴れい制度にすら手を觸れなかつたのであるから、他の全ての封建的遺物と等しく、これを一掃することは無產政黨の任務である。恰かも戶主制度その他婦人のれい屬狀態に對する全ての戰ひと等しくこれもまた日本特殊の國情による日本の無產政黨特殊の使命であることを覺えねばならぬ。そしてヤソ教婦人がどうしようとしまいと他人のそぶりは「一切氣に病まずに、全べての先入的偏見を除き去つてたゞ冷靜に事實を事實として批判し、この問題について無產階級の社會的正義が何を命令するかの一事だけを、眞面目に、眞劍に考へればよいのである。

九　結　論

以上に私は婦人部提案の綱領追加項目即ち婦人の特殊的要求が、いかにそれ自身において正しいものであるかそしてまたいかにそれが無產階級の利益と一致するか、否な無產階級自身の要求でなければならぬかについて大略を述べたけれどもなほ私は『プロレタリアの間においては男女の同等は說明を要せざる原則である、隨つて特に婦人の問題について細目を揭ぐるの必要なし』といふ反對論を豫期して、今一應立場を明かにしておく必要を見るのである。

第一に、前にもいつた通り、吾々が現にすんでゐるのはプロレタリアの國家ではなくてブルジョアの國家である。隨つてプロレタリアの間では八時間勞働が、要求せずとも認められる當然の原則であつても、ブルジョア國家の中では特にこれを要求する必要があると等しく、男女の同等及び婦人の特殊要求も、プロレタリア仲間の原則ではあつても、ブルジョア國家の原則ではないから、吾々は特にこれを明白に要求する必要がある。吾々が權利を要求する相手は、同じプロレタリア仲間の男子に對してではなくて、ブルジョア政府であることを忘れてはならぬ。

第二は、何人も原案に載つてゐるだけの婦人の特殊要求、即ち殘業、夜業、危險作業の禁止、產前產後の休養は承認してゐるのであるから、問題は、特殊要求を揭げ

る掲げぬの點ではなくて、どの程度に掲げるかといふ、程度問題に歸着するのであつて、ある人々は原案にある通りの、不完全な程度に婦人の特殊要求を代表せんとし、ある人々は一層十分に、完全に代表せんとするだけの違ひで根本的な態度の問題ではないのである。

日本時時の社會的發達の段階において、政治的社會的デモクラシーの要求が正しいとする以上は、それの徹底を求めてゐる婦人特殊の要求だけがブルジョア・イディオロギーであるはずがない。デモクラシーの徹底を必要とする限りは、そしてそれが無產階級解放への必然の過程であるならば、特に婦人の生活に關係が深いにもせよ、根底において男女共通の問題である封建的家族制度への反逆が、プロレタリアと沒交渉である所か、それの解放に必要な道程として認められねばならぬことはいふまでもない。私は上に社會生活におけるデモクラシーの徹底を主張する婦人の要求が、現在の日本における婦人特殊の利害を代表すると同時に、全無產階級の利害をも代表し、隨つて單に婦人といはず、無產階級自身の要求でなければならぬことを述べたが、終りに戰術の上から見て、これがいかに重要な任務を帶びてゐるかを一言しておきたいと思ふ。

十　結論

我國の現狀において、約百萬の女子賃銀勞働者は、大部分封建的勞働制度と家族制度とに縛られて、彼等の間には未だほとんど組合は組織されてをらず、更に女子人口の大部分を占めるべき農民勞働者及び小ブルジョアの家庭の主婦は全然無組織の狀態におかれてゐる。これ等の要求は現代社會の中の、最も後れた、最も壓伏せられた階級であつて、日常家庭生活のこまごました出來ごと以外、多少なりとも社會的問題には殆んど不可能に近い狀態にある。けれども彼等が無產階級運動の勝利にとつていかに決定力をもつてゐるかは、あらゆる國々の產業的または政治的危機の度每に明白に證據立てられた所である。これ等の婦人は參政權の問題などには風馬牛である。婦人勞働の保護の如きも、婦人の大部分が賃銀勞働者でない以上、それ等の大部分の婦人を無產階級黨の政策にひきつけるだけの力はない。

そこで彼等に政治的刺激を與へるためには、それ等の婦人の現在の社會における特殊の地位と特殊の利害とを考へ、それによつて生じた特殊の利害を、なるべく完全に、具體的に代表することにより、日常の卑近な題目か

ら政治教育の道を開かねばならぬのである。

婦人のために單に參政權を主張し、勞働保護が主張することが、決して婦人にプロレタリア的政治教育を施す十分な方法でないことは、大戰前においてそれらの主張のために眞先に働いた英國勞働黨やドイツ社會民主黨が一旦婦人參政權が承認せらるゝや、その投票をほとんど全く、保守黨または國民黨に奪ひ去られた事實に對して明かである。日本においても同じことで、大多數婦人が平生直接にぶつかる特殊利害をよりよく代表することによつて、無産階級黨の政策をよりよく理解せしめ、これを積極的に支持し援助するの態度に出でしめる用意を怠つたならば、『犬骨折つて鷹に取らるゝ』のことわざ通り、無産政黨はブルジョア政黨のために犬馬の勞を取つて婦人參政權を獲得してやつたと同じ結果に陷るであらう。

上にも述べた通り、日本ではブルジョア自由主義が確立せられぬ爲に、封建的な家族制度のしつこくが婦人を壓伏し、その人身的自由と社會的活動とを妨げてゐる點に特に注意しなければならぬ。故に無産政黨は、婦人の問題については、無産階級分子としてのその經濟的地位の擁護を圖ると同時に　封建的家族制度の遺物を一掃して女子の社會的れい屬を除くことを標ぼうしなければならぬ。かうすることにより、婦人をして、始めて無産階級黨を通じて階級鬪爭に參加せしめることが可能となるであらう。

組織勞働者の指導の下に都市及び農村の無産者及び被壓伏民族等あらゆる反封建的、反資本主義的勢力の總動員を行ふこと、これが大衆的政黨の任務であるとしたならば、現代の社會における特殊民または被壓伏民族の一形体を成してゐるともいはれる婦人をもそのさん下に包容することは、無産政黨がそれ自身の任務を遂行する上に必要缺くべからざる過程であるといはなければならぬ。

これ故に私は、上に掲げた婦人部提案の諸項の全部が無條件で綱領の中に採用されることを希望してやまないのである。（完）



女教師は教育に眞劍でないかを讀む

戀愛教育愛に就いて

——あはせて婦人運動の新らしき目標について語る——

高群逸枝

『眞の教育愛と眞の戀愛とは、矛盾するものでなく、從つて、「女には戀愛があつて教育愛がない、故に女は教育に眞劍になり得ない。」との觀察は、皮相の觀察であると言はねばならぬ。』

下中先生の御意見はかうでありました。本質的には教育愛と戀愛とが何等矛盾しないのみか、女性の特有愛である、母性愛と戀愛との關係を意味してゐるものであることは云ふまでもありません。

が、下中先生は、主として現在における學校教育愛をさしてをられ、

「眞實戀愛をはぐゝみ育てゝをる人々は、教育に對して決して「お座なり」ではあり得ぬであらう。さう云ふ人は、戀愛の對象への自由が獲得さるれば、それによつて教育愛を生かすであらうし、よしまた、對象への自由の獲得においてあぶれることがあつても、その人は、結局、教育との結婚を我から申込むであらう。さうして教育愛にその生を生かすであらう。」といつてをられます。

勿論、眞實戀愛をはぐくみ育ててをる人々は、教育に對しても、その他の何ごとにも、「お座なり」であり得ないと共に、より多く女性として自覺するところに置かれます。妻として。母として。

ですからある意味における社會的事業家としての立場と、この女性としての自覺の間には、多少の矛盾があることはまぬかれません。しかし、その矛盾が、女性を社會運動へ向けしめる原動力にもなるのであります。

◎

職業婦人に對しては、從來二つの見方があります。一

は女性も男性も等しき意味において社會的事業や運動に從事する權利と、その能力とをもつといふ見方、二は仕方がないから從事するといふ見方であります。

一を女權主義的見方であるとすれば、二は女性主義的見方であるとでも云へませう。

なぜなら、一の場合が、人間としての權利の主張であるに對して、二の場合は、經濟的に仕方がないから社會的職業に從事してゐるといふ意味と、女性が女性として生きるためには、社會改革に據らねば仕方がないから社會運動に從事するといふ意味であるからです。

一の場合は積極的であるが、二の場合は消極的であるしかも消極的であるが故に、後者は一層眞劍でもあり得る。とはいへ、それは瞬間的意味での眞劍、過渡期を突破する眞劍であつて、第一義としての生活内容は、矢張り女性として生きたいといふところに置かれてゐる。

⊠

ですから社會的事業や、その事業愛と女性との關係には矛盾はまぬかれぬ。ことに眞の戀愛を抱いてをる女性は、一層女性として生きるべく宿命づけられてゐる。戀愛が變態して、社會的事業愛になる場合もあるにはある。教育に、宗教に、社會運動に。

けれども、要するにそれは一種の變態であつて、女性の自然ではない。この意味において、「女性には戀愛があつて教育愛がない。故に教員としては不適だ。」といふ評定も、あながち不當であるといふことは出來ますまい。

⊠

が、ここに問題があります。「女性には戀愛があつて教育愛がない」といふ場合の、この教育愛たる言葉は、現在における學校教育愛といふ意味であつて、本質上の教育愛をさすものではないといふことがそれです。

「貧乏人には勤勉力行の習慣が缺けてゐる」といふことが、よく云はれてゐます。が、この批評は勿論、本質的に價値のある批評ではない。勤勉力行すべき環境が與へられてゐないからといふ事に歸着する。それと同じに女性の眞の教育愛も、また女性を生かす環境を必要とする。現在における學校教育愛は、女性の持つ眞の教育愛とは相反するものである。

現在における學校教育愛とは何であるかと云ふに、主として社會的事業の愛であると私は認めます。

子供が最初女性の手から社會へ奪はれ、社會がその教育權を握つて以來、生きるだけ生かし、伸びるだけ伸ば

す教育の眞意（女性のもつ）が、その社會の强權的教育その社會の支配者の意志によつてされる强權的教育に打ち更へられ、教育は化して社會的事業の一つになりました。故に、そこでは上からする教育、劃一、統一、支配等の教育が、眞の教育意志よりも重んぜられてゐる。眞の教育意志は、ここでは第二義的のものになつてゐる。

とりわけ現代にあつては、管理法、訓練法、教授法等の、形式的教育法が重く見られ、教育の事業化が一層露骨になつてゐる。かうした場合における教育愛とは、いふまでもなく事業愛のことであつて、女性のもつ眞の教育愛とは甚だしく相違してゐる。

このことは、女性が教育事業に携はるにつれて、とくに感ぜられ、發見される矛盾であらうし、この意味において、女性教育家の出現は、學校教育の革命をもちきたすものであるといつても、過言ではあるまいと思はれます。

現に私共は、自由教育法の創設者なる、パーンカースト女史や、モンテッソリー女史が、揃つて女性であることに深い意味を認めるのです。

女性のもつ眞の教育愛は、すなはち自然の愛、母性の愛であつて、「戀愛と教育愛」との關係は、女性が本能的に併せもつてゐる「戀愛と母性愛」との關係であることはいふまでもないのであります。

自由教育法は今や少くとも時代思潮になつてゐる。また今後益々さうなりつゝある。これは自然であるから拒むわけには行かぬ。けれども女性の教育愛の自覺は、單なる自由教育法の完成にとゞまることは出來ません。

⊠

他のすべてがさうであるやうに、教育の究極も環境の如何にあります。昆虫でさへも、その子供の發育に都合のよい處をもとめて產卵します。私共女性が、その子供を生かすのに最も適してゐる社會をもとめるのに、不思議はありません。

すなはち女性の教育愛の自覺は、まづさうした社會をもとめることと、次にいまの學校教育制度を廢して、母性の手にその子供の教育權を奪ひもどすといふ目標を發見します。學校教育法は、それがたとへ自由教育法であつても、完全なものではない。女性のもつ眞の教育愛から云へば、子供は母親自身のみが、よく生かし得る。

さうなつたときには、現在の學校制度は、化して、最も科學的な事業、主觀をまじへぬ施設となるでありませう。たとへば、圖書館とか、研究所とか、講座とか。そ

して、その利用は子供の自由な撰擇にまかせることとなるでありませう。

◎

以上の意味において、女性における教育愛の本質を、私は現在の教育愛とは別のものであるとし、戀愛とそれとの關係は、戀愛と母性愛との關係であるといふことを明らかにしました。そして、眞の戀愛をもつ女性が、眞の母性愛をもつといふことに就ては、あらためて云ふ必要もないと思ひます。

◎

女性が女性として生きるといふ上には、かうした色々な障害と、またそれを打破して、新たに女性がせねばならぬ改革が横たはつてゐるといふことを、私共は自覺したいものです。單に經濟制度を改革するのみでは、十分ではない。その上に新たに女性としての建設的目標をもたねばならない。

私共は、母性としての立場にあつては、前述の、學校教育制度廢絕といふ目標をもつ。すなはち教育の自由、教育權を奪ひもどすのである。

また、妻としての立場にあつては、結婚制度廢絕といふ目標をもつ。すなはち戀愛の自由である。

◎

教育の自由が時代思潮の一であるやうに、戀愛の自由もまた時代思潮の一である。時代思潮といふのは、否定しがたい宿命といふ意味をもつ。

近世人の自由要求は形式上においては、人間の自由要求でありました。しかし實際においては夫れは男子の自由の要求を意味するものであつた。而して男子の自由の發達によつて、女子も勿論利益を得るところ少くなかつた。しかもそれは只附隨的に獲得されたものに外ならぬ女子そのものの自由を要求して獲得されたものでない。このことを近代女性は漸次自覺しかけた。近代女性の自覺と共に、特に顯著な現象となつたものは何であつたか。いふまでもなく戀愛の自由といふことであつた。すなはち戀愛の自由は、女性のもつ重大な要求の一つである。

これは單に女性そのものの自由の要求であるばかりでなく、種族的にも重大な意味をもつてゐる。戀愛なき性關係は、不熱心な、不自然な性關係となり、女性とその子供、延いてはその對象たる男性の健康をさへも知らず知らずのうちに害しつゝある。

戀愛の自由は、必然的に結婚制度の改革といふことになつてきます。結婚の自由、離婚の自由といふことにな

つてきます。しかしこれは一種の空想だ。結婚や離婚の自由が、なほ社會的制度によつて支配され、裁かれるときには、相互の意志はどうかとか、眞に純粹なる離婚であるか否か、などいふ客觀的批判の標準が成立せねばならぬ。この場合、第三者、即ち支配者が干渉するといふことになるのだから、そこには戀愛の自由はない。

さてまた、戀愛の自由は、社會の秩序を攪亂しはせぬかといふ問ひに對しては、恐らく現代ほどには、といふ答へで十分でせう。しかもさうした戀愛の自由は、戀愛を進化せしめるのに特に役立つ。即ち、一夫一婦の結婚制度は、一夫多婦、多夫多婦等の戀愛關係を派生してゐるが、自由な戀愛は、その必然の過程として、一夫一婦、（永遠的な）の男女關係へ進化せしめる宿命をもつ。

四

結婚制度は教育制度とおなじやうに、支配者の支配的精神の一機關である。封建家族制度と云ひ、改革された家族制度と云ふも、そこに制度といふ名前がある以上、ある意味での封建的制度であることをまぬかれない。

たとへば新ロシヤでは、結婚する者は相互のどちらかの性を名乘ることになつてゐるといふ。一つには生れた子供に姓を傳へねばならぬから。が、この姓といふものが、早く云へば封建家族制度の遺物ではないか。傳統や因習を引きずつてゐるシンボルではないか。

私共は、徹底した女性主義によつて、あらゆる思想を批判し、あらゆる制度を見極めねばならぬ。アナルコ、サンヂカリズムといふ主義があるが、さうした意味でのフエミニズムとでもいふ思想が、必然的に私共の思想ではなからうか。なぜなら、社會的意識に目ざめた上での個性、すなはち性別的目標をもつからである。

それは兎に角、私共は女權主義、參政權運動を、ブルジョア婦人運動の名のもとに蔑視することは出來ぬ。確たる一つの存在、婦人運動の一度は通過しなければならぬ關門だから。たゞ過去の婦人達は、それを絕對とした傾きがあつたらしい。この意味において、婦人の共産主義的思想化は、一の重大なる覺醒運動であつた。が、今や私共は、それだけでは不安でもあり、不滿でもある。

山川菊榮氏も云つてをられるやうに、婦人には矢張り婦人特有の問題があつて、婦人自身が解決しなくては、他人の手では結局おぼつかないし、手も廻らぬ。山川氏はそれを、現在の社會における婦人の特有の立場としてのみ、いつてをられ、將來にあつては他に委托してをい

ても完全な婦人に對する制度が出來上るやうに見てをられるけれど、その將來とても決して安心してはならないまた婦人のことは婦人が主張しなくては、他人には分りもしない。教育の自由權や、戀愛の自由權にしたところが、社會は婦人からきいて、始めてああ然うかと肯づくでせう。

◎

無產政黨の政綱が婦人に對して不備であることは、山川氏と同感です。けれども無產政黨としては、無產政黨そのものの政綱でさへ繁多に過ぎるといはれてゐる今日婦人に對して政綱の不備のごとき如何ともしがたいものでは無からうか。すなはち婦人參政權獲得を急いだ方が婦人としては上策であるかも知れませぬ。但し、以上の意味においてはです。なぜなら、婦人參政權が獲得出來れば、無產政黨の婦人に對する政綱は、期せずして實際味を帶びて來るに違ひないからです。

◎

私共は團結心がないと評されてゐます。が、ある意味において、それは私共の幸福？を語つてゐる。私共は今後、團結せずにはゐられなくなるといふ處へ行きつくに違ひありません。そしてその兆は見えそめました。一個の實体には、各部がそれぞれ備はります。そのやうに、私共にも、參政權運動、勞働婦人組織運動、或は教化係といふやうに、色々ありませう。現にいまも漠然とにはさうなつてゐますが、その間に連絡がない。本能的の連絡はあるが、意識的のそれがない。それは一に、思想の相違からきてゐるのではあるまいか。この意味において私共は抽象的といふ譏りはよしまぬかれなくとも、女性としての思想的立場について、意見を交換したい。

尤も私共は、性別的運動を廢止するであらう。そして無產婦人としての本據に據らねばならぬ。しかし、それは性別的目標を抛つといふ意味においてゞはない。それを生かすために、それに理解ある階級運動と相携へ、若くは階級運動化すといふ意味においてゞある。

同じ階級運動でも、團体的に思想的に背景がそれぞれあつて違つてゐる。漫然とさうした分裂した各團体に附隨し、各團体の單なる婦人部として存在することには賛成できない。

この意味においても、婦人としての思想的統一、婦人として獨自の主張をもたねばならぬことを急務であるとして私は指摘したいのであります。

下中氏に

くさのどり

もの丶わかつた男性の間での、女の先生に對する評定さうして執筆者の御考察の結論、共に私の心の一部にふれる所がござい丶ました。

私が今申上げんとすることは、あなたの御感想に對する批評でも、答へでもないことを前もつてお斷り申して置きます。たゞせまい私の見聞の範圍から、日頃私の頭にうつつてゐる男、女の先生の輪廓をゑがき出し、併せて私の感想の一節をのべてみたいと思ひます。

あなたは、「女の先生は教育に眞劍になり得ない樣だといふ評がある。」とおつしやいました。併し、私から見た男の先生はより以上に、眞劍味を缺いてゐる樣に思はれます。「戀愛はあつても、教育愛はない。」といはれる女の方にこそ、まだ一部ののぞみがございます。「「教育愛よりもや丶遠い感情の中に生きてゐる」といはれる女性の方にこそ、まだ救ひの手がのびやすいと云ふものです。何故なら、女は男ほどに（よかれあしかれ）目ざめてゐないからです。つまり個性が出來てゐないわけなのです。私共の知れる限りの男の先生の大方は、一體何を目當てに教育に從事してゐるのでせう。

此の世の中の社會制度の缺陷、生活の苦しみを、あらゆる方面にまきちらしました。生きんがため、食はんがための教育者達の、あの生活をごらんなさいまし。どこにあなたのおつしやる教育愛が御座いましよう。人間味がござい丶ましよう。教壇の前に立つて何を說き、何を教へてゐると思召します？熱も愛も、遠くの方にふきとばされて、己の天職の尊さを知らず、金もうけの話にすべてを忘れてゐます。眞の戀愛もなければ、眞の生活も知らぬ。いやいや自分自身の心の尊さへも知らぬ大方の男の先生、眞の教育愛の芽生え樣はづはありません。

あらゆる階級の中で、教育界にある男、女ほど、無自覺な無反省な意氣地なしはないと、つくづく考へさせられます。

併し、そんなデクノボーを造る師範教育がわるい。教育界の空氣がいけないなどいつて、すましてゐる時ではありません。

うつてひゞかぬ鐘はないはづです。己れからよきうちてを求め樣と、進み出ることを知らぬ人達のために、適當なうちてがほしいものです。（一九二六、一、一三）

女教師のつぶやき

山路一枝

一

「男の先生に比して、女の先生はどうも教育に眞劍でないと云はれてゐる。しかしこれは、女の先生の地位が男の先生のにくらべて低いためであるが、又一方では、女の先生自身に進取の氣勢が缺けるため、そんな地位をおしつけられた因果關係で……、その根本理由は、女に戀愛があり教育愛がないからでなからうかと云はれてゐる」

と下中先生は云はれる。

私は女性が、男性にくらべて教育に眞劍であるかないかといふ根本的な議論は暫く措いて、女の先生から進取の精神を奪つてゐるものは、一に、現在の男尊女卑の社會的環境と、その直接の原因は、現在の教育行政の制度であると云ひたい。云ひかへるなれば、女の先生は徹頭徹尾、男性の支配の下に置かれてゐる。從つて進取的なものは教育界に安住してゐることが出來ないやうな、現在の教育行政の制度に、更に社會制度に、因果律の最初の環を求めたい。

二

「女には戀愛があつて、教育愛がない。女が男を欽敬するのは結局戀愛することと同一義らしい、女は許といふこと、好くと云ふことが同一義らしい。女は意識的にも、無意識的にも、戀愛することによつて、その思想も、その行動も統一されてゐるらしい。ものゝわかつた男性の間で、こんな評定がしばしばされるのを聞く」

こうした言葉をきくと、私はすぐ女には結局性慾があるだけで、道德觀も、正義觀も、社會的觀念もないと云つた、ワイニンゲルの亞流としての、男性の、意地の惡い皮肉を感じる。さうして「男は、意識的にも、無意識的にも、女を性慾の對照とすることによつて、その思惟もその行動も統一されてゐるらしい。」とこんな皮肉をあびせたくなる。

三

純情としての戀愛が、その根本に於て、教育愛に異るものでないと云ふ下中先生の説には、私も同感である。

が併し、教育愛の問題はおいて、果して現在の男性と女性のいづれが、より多く、この純情を持ち合はせてゐるかと云ふ事になると、內務省の統計でも見せてもらはねば、俄かに斷定は出來ない。

四

「今の女の先生たちの多くが教育に眞剣になり得ないのは實は、戀愛に專らであるからでなく、戀愛の形式たる結婚要求に、あまりにも專らであるからである」

と云ふ下中先生の言葉には同感である。

男は結婚に際して撰ぶ事を許されてゐる。女は撰ばれる事を許されてゐるだけである。殊にさうした封建道德の苗床である現在の教育界では、掟てがきびしい。純情としての戀愛を抱く女性は、いきほひ今の教育界から去らねばならぬ。

五

性的ギャップを深く掘り下げて行くと云ふ事はよい事であるか惡い事であるか、私は知らない。然し一方に、有史以來のハンディキャップを付けて置いては、どんな事だつて、角力になりつこはない。

下中先生の我々女性に好意ある筆を見るにつけても、虐げられる者の憤りが、いつの間にかあくどい皮肉となつて迸り出る。

故里遠し

——— おく・えいち ———

春に近し
障子に鳥の影さすと
病む子はいたく悦びにけり

×

めづらしく晴れたる空よ
猶を病む
吾が子と二人野に凧をあぐ

×

遠くより歸るがうれし
雪の夜を
ことさら外に出でて見しかな

×

ふる里よ
吾がたらちねよ吾が家よ
思ひ出の外に見るよしもがな

×

いつのまにか
歩いて居れば日が暮れて
見知らぬ町に灯がともりけり

×

悲しくも我魂を賣らざれば
生きがたき世に
父として生く



埋草

むめお

『今日は嬉しかつた、ほんとにいゝ日であつた。』と、私は歸るみちみち、子供のやうな輕い氣持ちで獨りごとを云ひながら駈けて來た。

私は今日、何年ぶりかで、ほんとにゆつくりした氣持で友だちに會つて來たのであつた。そして、お友達といふのは、みんな貧しく暮しにおはれてゐる者ばかりだのに、けふはみんなが妙に落ついて、別にこれといふ話もないのに、しみじみした調子で話し相手になつてくれた。

……雜記するのに四時間位はかゝるだらう、と思つて××へ出かけて來たのに、そつくりこれをあなたに上げませうと云ふことで、私は實に思ひがけない四時間を得たのである。私は大悦びでOさんの家へ初めての訪問をした。

Oさんは、糊のこわい蒲團のかゝつたコタツに坐りながら、のんきさうに毛糸編みをしてゐた。長編みだつたのだけれど、あんまり伸びてしまつたので編み直してゐるのださうである。

二月の初めに越後まで講演にゆくことになつてゐるのだけれど雪のために列車が立往生をしてゐるさうぢやないの。こわいわね、と、Oさんは、心配さうな顏をして話しかけて來た。『だつて、汽車の中にはスチームもあるし、留つてゐる間は二日でも三日でも、ホヤホヤの握り飯を買へるのだから、ちよつと、そんな經驗をして來るのも面白いぢやないの』

私は、もう十年以上もみないでゐる雪にとぢこめられた故郷の、この頃の状景を思ひ浮べ乍ら微笑した。

□

いつも、出かける時に云つて置く時間よりも遅れて歸宅しない事のない私ーは、今日は一つ早く歸へつて子供たちをびつくりさせてやらうと、ちよつとしたおミヤゲを買つて電車にのつたけれど、何だか惜しくて仕様がないので、又中途で降りて、Yさんを訪ねた。(ここも初めての訪問だ、毎日次から次へと用事におはれてゐて、たづねたいと思つてゐる友人を、たづねてゆくひまさへもつたことがない。淋しいことだ、と、ときどき思ふのだけれど)Yさんは、だしぬけなこの私の來訪をほんとに嬉しさうに迎へてくれた。ショウちやんも、私を忘れないでゐた。それにYさん處へ入る四ッ辻で、Mさんにも行き合つた。Mさんは、らんちやんをおんぶして、朝子さんをつれて歩いてゐた。こんな事なら、私も坊やらをつれてくればよかつたと、自分一人子供を家において來たのが淋しかつた。

こゝでも、日あたりのいゝ二階に子供中心のまどゐを作つてとりとめない一時間ほどをすごした。

新宿の終點で、これからOさんの處へ行くのだといふKさんの姿をみつけた。人ごみの中を急いでゐるKさんの横あひから頰つぺたをつゝいて、びつくりさせたほど、その時、私は子供らしくはしやいでゐた。

……『さあ、又おくれてしまつた、』私は、駈け足で家に歸つたのである。

農村處女の生活手記

藤井繁野

×月×日

みぞれ吹きまくる師走の或る寒夜、ボツネンとして瞑想に耽るのであつた。離れて廿餘年のあひだ今日まで、學校を卒へたそれが最後だつた。家庭と勞働、それ以外に私の知るものはなかつた。もちろんそれ以外に强ひて知る必要もなかつたのであるが、それにしても、余りに不甲斐ない道程だつた。その數年間は、全然社會てふものとは沒交渉ですごして來た。

所用あつて、今日初めて家を外に△町に出た。

數年の昔、此地の女學校に學んだその當時の面影は僅かに殘して居るのみ、いちゞるしいその變化よ。家を外にはじめて出た若い女性の目に映じるものは何であらうか。周るの人々のその華やかな裝ほひが、幾度となく私の心を魅惑的に引つけずにはおかない。

あのけばけばしい金紗の羽織、二つに切つてもまだ長すぎるようなショール、異樣にうねらせてゐるあの髮形、それに比して色あせたメリンスの着物に、艶も光もない毛糸の肩掛、無造作な束ね髮しか知らない若い女性に、それはどんなに反映しただろうか。

それは私しらと同じ階級に在る農村諸姉達でなくては味はふ事の出きない××であつた。

然し、農村婦人にしろ、都會婦人にしろ、貧者にしろ、富者にしろ、人間の本能は常に上へ上へと目ざすそれに何等變りはあるまい、されば私がその瞬間に感じた××を、自分の心の弱さからおこる虛榮と名づけるには、余りに可酷のように思はれてならない。

おゝ、時代に目覺められた新婦人達よ。諸姉は如何に思召し給ふか。

×月×日

二三日前より、急に又寒くなつて困る。然し私達は寒いからとて、家の中にばかり居ては仕事が出きない

冷たい、寒いと凍えながら谷川に菜を洗ふ。

澄み切つた水面に映つる自分の姿を眺めて、その無邪氣な純眞な少女の面かげは、あのミレーの畫に思ひを馳せる。然し、私は常に思ふ。彼のミレーの畫に表はれてゐるように私達農村が平隱な、純眞な、そう！て美しい大自然に惠まれた、抱擁された安隱な生活狀体にあるのだらふか？と。

あゝ、私の手からは限りなう血が

にじむ。これが自分の手とは思へない。冴え切つた流れに、私の手は全く無意識、無感覺となつて終ふ。

亦もしぶきまじりの身切風が荒れ狂ふ。此の寒天に、にじむ血と、六月の炎天に流す汗血は、實に農人ならでは味はうことの出きない辛酸よ血の涙よ！

×月×日

私は婦人運動の編輯主任奥氏よりの寄稿依頼のことを思ひ出した。それは、お互ひにあはたゞしい日常生活状体の眞相をとの事であつた。

私が農村の青年女子として、どんな生活行路を歩んでゐるか、それは私には余りの難問であつた。

しかし何か書きたいものだとつねに氣にはしながら、どうも悠くりと落付く假がない。ほんとに私達は、家と云ふもの丶中の調法な機械だ。晝となく夜となく、制限のない仕事に無報酬で働らかなくてはならないんだもの。然し他の勞働婦人、職業婦人よりは、その生活が安定であると世人は思ふかも知れない。實は決してそうではないのであるけれども。

たとへば、賃金勞働者は資本家に搾取されつゝも、いさゝかの報酬が與へられる。それにくらべて、お互ひ小じかけな農人は、米麥を生産しつゝその大部分は肥料代に、地主に搾取され、餘る所は、その多大な勞力にくらべては全くゼロ以下になつてしまふのである。

げに現代資本主義の進展は、必然にかうならざるを得なかつたのだらう。痛感に絶えない。

×月×日

あれも見たい、これも讀みたいと思ふ新刊の書物は山ほど胸ぬちに積まれてある。然しどうすることもできない。金はなし、時間もなし。只只無智のまゝにほうつておくより外仕方がない。そうは云ふもの丶この青春の胸に燃え上る知識欲のほのほを何を以つて抑へて行かうかしら。もがけばもがくほど、あせればあせるほどその欲望は一層猛烈となつてくる。そしてその果は、自分の此の日常生活を限りなく呪ひ、猛烈な知識欲も悲惨な煩悶となり、苦惱となつて表はれる。

おゝ再び目覺められた婦人達よ、私は、私達は、婦人の參政權も、位置向上も要らない。それは私達が啓蒙の女神によつて階級制度の破壊された日には必然に與へられるが故に。おゝ啓蒙の女神よ！

或る看護婦の訴へ

吉村シズエ

私ガ只今ノ職業（看護婦）ニ就キマシタノハ十五才ノ一月デシタ。多クノ乙女ノ誰シモガ持ツ淡イ憧レト、希望ニ心オドラセツツ上阪致シマシタ。ソシテ、只早ク一人前ニナリタイモノト、一心ニ勉强致シマシタ。約一ケ年後檢定試驗ニ合格シテ、正看護婦ト認メラレタノデス。

私ハ私ノ行手ニ、ドンナ世ノ荒波ガ身ヲカマウト待チカマエテ居ルカヲ想像ダニモシ得ナイ、純ナ乙女デゴザイマシタ。私ガ派遣看護婦トナツテカラノ苦ミ、悲ミ、惱ミ、喜ビハ一度派遣看護婦トナツタ者デ無ケレバ味ヒ得ヌ深イモノデシタ。ソシテ少シデモ、此の苦ミヲ樂ニスル道ハナイカト考ヘマシタ。此ノ不合理ヲ少シデモ合理的ニスル方法ハナイカト考ヘマシタ。其ノ結果、ソノ方法ハ矢張私等自身ニアル事ヲ知リマシタ。私等自身ハ目覺メテ奮ツテ立タネバナラナイト信ジマシタ。

目下會ノ組織ハ丁度、口入業者ト大シタ變アリマセン。否ヨリ以上、非道、ヨリ以上非文明的デス。

私等會員ハ、會長ノ命ニヨツテ病院又ハ自宅ニユクノデスガ、ソコデ得タ賃金ノ二割ヲ會費トシテ納メ、他ニ舍費（家賃）親愛會費（友人ノ病氣見舞、又ハ結婚其他ノ贈物ノ費用）洗濯賃、食費、夜具、其ノ他ミナ自分持デス。此ノ内ノ親愛會費ハ毎月收メマスガ、私ガ病氣ニナツタ時モ、友達ガ病氣ノ時モ、結婚シタ時モ、退會シタ時モ、モラツタ人モ無ケレバ、又贈ツタト言フ話モ聞イタ事ハアリマセン。

モシ私等ガ病氣デ臥シマシテモ、會長ハ何等關係ナシデス。其ノ上、患家デ病氣ニナツテモ、決シテ會ヘハ（宿舍）歸ルナ、直ニ入院シロ、宿舍デハ自分モ充分養生出來ナイダラウシ、會長モ迷惑ダト常々言ワレマス。ミンナ心ノ中デハ、何ノ爲ノ宿舍ダ、何ノ爲ノ舍費、何ノ爲ノ會費ダト憤ツテハ居マスガ、若クテ未熟ナ私等ハ肚ノ中ガ煮ニクリ反リソウデモ・怒ルコトモ泣クコトモ出來ズ、只時機ノ來ルノヲ待ツテ居マス。

× ×

何故時機ヲ待タネバナラナイノデショウカ。ソレハ食フ爲ニハ働カネバナラナイカラデス。働クニハ矢張會ヲ便ラネバナラナイカラデス。

若イカラダヤ晴ヤカナ心ヲ犧牲ニシテ、晝トナク夜トナク無差別ニ働キ、或ハ喜ビ、或ハ案ジ、夜モ眠レナイ程一心ニ病人ヲ看護シテ初メテ御禮トシテ得タ賃金ヲ、何ノ苦シミ

モ悲シミモナク其ノ二割ヲ收得シ、行方ノ知レヌ親愛會費ヲトリ立テ、又五坪ホドノ所ヲ幾十人カニ借シアタヘテ眞價以上ノ家賃ヲ要求シ、ナド不當ナ事ヲ平氣デ行ヒ、只已レ良カレノ外會員ノタメハ少シモ思ハズ、傳染病ニデモナレバ、看護婦會カラ傳染病ガ出タトスレバ會ノ名折ニナル、大体傳染スルナドハ自分ガ不注意ダカラダ。ヨク消毒シテ、食事等氣ヲ附ケテ居レバソンナ事ハナイ筈ダト、直グニ入院デス。

仰セ御モツトモ御言葉通リ入院位結構ナ事ハアリマセンナルホド傳染スルノハ自分ノ不注意デス。シカシ何故傳染シナケレバナラナイデショウ。患者ニ規則正シイ生活ヤ養生ヲ實行サセル爲ニハ、私等ハ不規則ナ生活ヲシナケレバナリマセン。病者ニハ夜晝ノ區別ハアリマセン。却ツテ夜ハ苦ムノデス。遠ク離レテイテ看護ハ出來マセン。患者ト同室デ生活シ、食事ヲ取リ、雜務ニモ服スルノデスカラ睡眠不足モスルデショウ。精神ノ過勞モ、肉休ノ過勞モアル事デス。過勞ガ何ヨリ病氣ノ原因ナノデス。其原因トナル事ヲ押シ通サネバナラナイ私等ノ職業デス。丈夫デ働ク日ノ多イ事ガ不思儀ナ位デス。幾日土ヲフマヌ日ノ續ク事デショウ。幾日日光ノ惠ミヲ直接浴シ得ヌ日ノ續ク事デショウ。

コンナ事ハ考ヘナイ會長ハ、只會ノタメ、オノレノ爲ニノミ考ヘテ、ヤレ會ノ名折ダノ、不名譽ダノ、不注意ダノト、看護婦生活ヲ知ラナイ者ノ様ナ事ヲ平氣デ口ニシテ居マス。

×　×

入院モ結構デショウ、入院スル爲ニハ費用ガカヽリマス。私等ハソンナオ金持デハアリマセン。ナイチンゲールノヤウニ、ホントウニ犠牲心ガアツテ博愛主義ニ生キルノデアレバ、私等ハ喜ンデ無給デ多クノ人ノタメニ歩イタデショウケレド、ソレハ致シ度クモ出來得ナイ無産婦人ナノデゴザイマス。私等看護婦ノ多クハ、父母ノイヅレカト死別シタリ、家ガ逆境ニアツタリスルタメニ、比較的收入ガ多イト言フシ、十五六才ノ頃誰シモ持ツ犠牲、ト言フ美名ニ憧レテ、ソノ內實ノ如何ヲ考ヘズ看護婦トナル者ガ多イ様デス。デスカラ、其ノ苦シミノ大キサ、此ノ社會ノ不合理ニハツクヅク驚キマスケレド、生キルガ爲メノ働キデアリマスカラ皆忍ビマス。此の苦シミニ勝タウト致シマス。ケレド行手ニハ大キナ不幸ガ待チ構ヘテ居マス。大抵ノ人ハ一度カ二度、多クハ三度四度トツマヅキマス。一度ツマヅケバ容易ニハ起キ上リ得マセン。之ヲ助ケ起スノガ、起キ上リ得タ人ノ務メデハ

ナイデショウカ。自分モツマヅイタノダカラオ前モツマヅクガヨイ、否モツト苦シメテヤロウト言ツタ風ニ、起キ上ロウトスル者ヲ押サヘ附ケ樣トマデスルノハ暴行ダト言ヒ得ルト信ジマス。非道トモ申サレマシヨウ。

只今ノ會長ト會員ノ關係ハ、此ノ押サヘタ人ト押サレタ人トノ關係ニモ等シウ御座イマス。

私ハ、此ノ苦シミ、此ノ惱ミヲ數多ノ人等ニ味ワセタクナイモノ、少シデモ輕クシテ上ゲタイ、セメテツマヅイタ時ダケデモ抱ヘ起シテ上ゲル樣ニシタイト幾夜幾日思ヒ續ケタ事デショウ。

× ×

私ノ思ヒハ平凡ナ當然ナ事デスケレド、實行ニハ多少ノ困難ガアルト信ジマス。ソレハ私等自身ガ團結シテ會長ノ爲ノ會デナク會員ノ爲ノ會ニスル事デス。只之丈ケデス。私等織友ガ互ニ助ケ合ツテ私等ノ爲ノ會ヲ組織スル事デス。

只今ノ會ノ組織ノマヽデハ、只オ金持ノ看護ヨリ出來ナイワケデス。ソシテ會長許リ結構デ、私等ハイツモイツモ苦シイ思ヒニ、日ヲ送ラネバナリマセン。此ノ不正ヲ默シテ見ノガスベキデショウカ。アトカラ進ミ來ル人ニ味ワスベキデショウカ。コノ社會ヲ少シデモ住ミヨクスルタメニ務メル事ハ、私等人間トシテノ務デアルト信ジテ、私ハ同志ノ方々ニ申シ上ゲマス。

目覺メマショウ。ソシテ務メマショウ。少シデモ住ミヨイ、苦シミノ少ナイ社會ニナル樣ニト。

貧しきものゝ婦人運動

ふみ子

あなたのお書きなさいましたものはかなり前から愛讀して居りましたが、私があなたを初めて御みかけしたのは、協調會館での何やらの演說會の辯士としておたちなさいました時でした。その時お話しをなさつてしまつてから、紀伊子ちやんをねんねこにおんぶしてお歸りになる後姿を拝見して、私はいひしれぬ力强さを覺えたことが、いまはつきり思ひ出されます。ねんねこにおんぶしたあなたの後姿が、私達無產階級の女達のリーダーとして、何とふさはしかつたことでせう。

私達の無智と無自覺を導いて下さらうとしてゐらつしやる智識方面の女の方達の、色々な運動を、私共はあきる程見物させられます。そしてその運動にお働きになつてゐらつしやる學識の豐富な、上品な方達の美しいお働きに、うつとりさせられま

す。しかしその方達の運動が、お働きが、目的や綱領を立派におかゝけになればなる程、我々貧乏階級の無智な女には、わけがわからなくなつて來るので御座います。どうした譯で御座いませう。私はこれに就いてこんな風に考へてゐます。勿論私共の受けかたが惡いには違ひありませんが、それよりも社會組織の根强いより大きい原因が余計にわけをわからなくさせるのではないのでせうかと。生意氣な事を思はず書いてしまひました。御笑讀下さいませ。

女である私達の進路にはかなり痛い苦しいいばらの道が嘲笑や侮蔑や威嚇の障害物を横たへて續いて居ります。何とか覺悟しなくては、かう考へて私はいつもおくびょうで無智な自分が悲しくなつてしまひます。

家事におはれながら

鳥羽勝子

毎月毎月雜誌を拜見いたしますたびに、私は自分が、良くいへば家庭的になり、惡く云へば、或意味の家庭的への墮落をして行くことを深く感じます。毎日毎日の家事におはれて、私の頭はなんてにぶつて來たことでせう。私は自分達の家庭と云ふ一ツのカラの中にとぢこもつて、その生活をよりよくするために、いゝえ、その日その日の炊事や洗濯に追はれて、世間をみたり考へたりすることが少なくなつてしまひました。自分達の生活にのみ追はれて、私は私より貧しく不幸な方達を忘れたのでせうか。すくなくとも二年前、いゝえ一年前でも、私は强い熱を持つてゐた筈でございます。

私はそのためには、何物をも辭せない覺悟でしたのに。忘れるともたく、生活に追はれてしまひました。

「家庭はリコウナ女をヒステリツクにする」たしか讀賣新聞か何かで、こんな言葉をみたやうに記憶いたします。そして私も時々、自分が無智であつたらそして家事に沒とうしてゐられたらと思ふことがあります。本當に私共は、結婚前家庭にはいる迄は、どんな理想を抱いてゐたかしれませんのに、そして勉强家であつたかしれませんのに、一度家庭に入つたが最後みんなあきらめねばならないのです。あきらめられない故に、そこにイライラした自分をみ出さなければならないのです。

私は本當に忙しい生活をして居ります。大勢の家內、それも私共とはまるつきり考への違つたブルジョア的の考への周圍の中に、毎日毎日洗濯と炊事で過して居ります。あまり丈夫でもない身体なので無理は出來

ませず、それなのに、私が寢ずにしたつてしきれないだらう位の用が御ざいます。それでゐて私には、炊事や洗濯では滿足出來ない何物かゞ時々頭をもたげて參ります。そしてついイライラしてしまひます。九月號でしたか、木村てる代さまの良人にあてた手紙やうなものが御ざいましたが、あれに似た氣持が私をおそひます。けれども現在の私には、いくら何かしたくても何をする暇があるでせう。やつぱりあきらめねばならないのです。けれども、それも貧しいからです。もしも金持なら、自分が本が讀みたければよみ、外に出たければ子供を乳母にあづけても出て行かれて、好きな事が出來るでせうに。

あゝ……貧しい者！いゝえ、私は自分がそんなに今日まで苦しくとも食に困る事なくやつてゐました故、私より未だ貧しい人達の事を考へますとぢつとしてはゐられないやうな氣になります。然し現在の私はどうしたらいいのでせう。どうする事も出來ません。…………………………

九州の涯の工場にて

うめ子

長い長い間、私は、自分の官吏生活を呪ひました。……けれど自分の生活に保證もなかつた私は、呪ひながらも今年の七月まで其の生活をつゞけて來ました。無理解な、さうして非常識な上席のむちに幾度打たれたでせう、私はそれを今年の七月末まで、甘じて來たのです。私のパンのために……

けれど到々私は……心に覺醒を叫ばずには居られなくなりました。生活などはどんなにしてでも出來ると何かの拍子に胸に浮んで來ましたので、さあ、居ても起つても居られなくなりまして、到々官吏生活から足をあらつてしまひました。三月ばかり浪人生活して居ましたが、いつまでも親のもとに居るのも不本意故、亦々學校長の推擧で、こうした島流しにあつたやうな遠い地の果に働く事になりました。

今ちやうど五時の汽笛が鳴りましたから就業の準備にかゝらねばなりません。又いづれ夜にでも書きます。

× ×

人形の家でなくとも、私共は、否私は、家庭に入る前に自分を見出さねばならないと……は常日頃思つて居ることで御ざいますが、つひ仕事に逐はれて、どうした道程を辿つてよいか目標がつきませんで悲しんで居ります。尙更當地方の婦人達の無

自覺にはおどろいて居ります、（私の知れる範圍で）第一不しだらで：：ちつとも心が締つて居りません。私のやうな底に近い者でさへ歯がゆくなりますもの。こうした同性の中に居ります自分迄が寸進尺退の有様です。つとめて社會の事共に離れやうと心掛けて居りますが本當に思ふにまかせません。私はいつまでこうしたグルツプの中に生活をせねばならないのでせうか。……判りません…けれど私はいつも思ひます。窮屈な官吏生活よりましだと。自分の思想も自由に發表出來ぬ　……若しそうした事共を一寸でも云へば、危險分子に決める官吏生活より、或程度迄は言論も自由の勞働者、プロ生活の方が本當に面白く思はれます。けれど何分にも十二時間以上の勞働のため、ゆつくりした時間のないのが殘念でございます。

やうやう工場も終へてこうしておたよりと思ふ時は遠慮會釋なく時はすぎて九時をさしてゐます。疲れ切つてさびしい寄宿の一隅にペンを握つて居ります時は、我しらず、そこに何物かの强い强いショックを與へられるやうな氣がしてなりません。

やりませうやりませう。きつと…そうして一日も早く私等の力で本當にくずれぬ城を築きませう。私はやりますどこ迄もどこまでも……何だか胸がワクワクして來ました。いつまでも此の胸の火を消さぬやうにつとめませう……（十三日夜）

私の地方の婦人たちに對する不滿

山崎北衞

豐橋にだつて『婦人運動』をよむ位の婦人はきつとある！

から私の友人も云つてゐられましたのですがどうも實社會の問題より藝術的感情と云ふた方面の音樂とか詩などが大變に好まれてゐるやうです。一般に都會の婦人の方に比べると、一昔しおくれてゐるやうな感じがしますが、殊に若い女性の方が、これから實生活に入らんとする備へも、一定の思考ももたないで、時流を追ふような文藝に日これたらずとしてゐられることは、かなしむべきことと思ひました。縣下においても豐橋ほど讀書力の少ないことはないといふ事をかつてきゝましたが、實際そんな感じがします。

なに一つ文化的設備をもたないここでは、みなさんの向學熱も研究心もなく、獨創もなく、ありきたりの地方の慣習によつて漫然と墓を堀つてゆく感じがゐたします。何つて一つか、婦人の覺醒運動が起つたでせ

うか。私は土地にゐて未だ一度もこれをきかないのです。『婦人運動』雜誌はこの意味にをいても、婦人の方からうとまれてゐた論理方面の啓發になると信じてゐましたが、この結果を見ることは如何にも殘念に存じます。中には求めてゐられる人もあるのですが何分婦人の方が持つ性弱性が、勇敢にも自己を主張し得ないといふ場合も多いように見受けます。また婦人運動といふことが、ソシアリズムの傾向ををびてゐると杞憂を抱いてゐる人もあるようです。これらは婦人運動を理解しない人であることは勿論でありますが、全体にをいて知識程度が低のでありませう。家庭の主婦として知識階級に屬する人の間には、銳意自己を守るべく努力はあるものの、卒先して社會や人のために、または同性のためにも餘裕を割いて働くといふ人を見出しかねる缺點もあるようです。

でも、この豐橋の女性の中から、これだけ、購讀を申込んで下さつた方をお知らせ出來るといふことは、豐橋の女性の中にもかういふお方も有るといふ自慢にさせていたゞいてよからうと思つてゐます。

今後も、たとへいろんな困難にぶつかつても、出來るだけお話しいたします。長い月日の內にはまたよき好果もあるかと思ふてゐます。

二月の『婦人運動』讀者例會

二十日（第三土曜日）夕方より
牛込區原町三ノ三十八（若松町下車）
大宅和子氏宅で

別に御案內はさし出しませんが御都合のつく方はゐらして下さい。夕餉の膳を共にしてお話をし合ひませう。

一月のときは豫想外に多勢集つて下さつて中々元氣な面白い會でした。

ハガキにて

古荘豊子

順調に育ち、幸な職業を與へられながら、常に何かへ向けてわからない不滿な心を持つて居りました。

御誌を拜見して、はつきりわからなかつた私の不滿や望みが、目がさめた樣な氣がして喜びに滿されて居ります。

三四頁の『婦人運動』讀者懇談會のお知らせを見まして、丁度今夜、東京でお集りになるのを思ひまして、お羨やましく、こんな遠い地から、まだ余り知らない御會の盛會であり、ほんとうに良いお集りであつたろうと、想像して居ります。これから私も手續きをいたしまして、拜見さして戴き、勉强さしていたゞき度いと思ひます。今夜の會を思ひ、失禮もかへりみず筆を取りました……

二月號の婦人公論の『政治季節に際して婦人に贈る』の中で佐野氏は次のやうに婦人代表者會議のことを書いてゐられます。婦人の政治運動をできるだけ有効に、組織的に進めてゆく一つの方法としてこの際みんなで考へてみたいものであります。

婦人代表者會議に就いて

佐野學

婦人代表者會議といふのは、いろんな婦人團体の代表者や、特別に集團してゐる婦人の代表者が會合し、婦人全般の政治的問題を討議し、一定の方針を決定し、社會に訴ふるとともに、この共通的方針のために各個の婦人が其立場々々で働くことを目的とするものである。この會議は婦人の共通利益を討議し共通方針を確定するのであるが、各種の婦人の間に於ける政治的意欲を統一し、これに具體的な組織を與ふるものである。この會議は實際運動の組織化に役立つと共に、婦人に對する教育的宣傳的任務を負ふものである。この會議の構成分子は、日本の婦人が封建的重壓から脱せねばならぬ關係上、少ブルジョア的急進婦人と無産階級婦人とであるべきであらう。

この婦人代表者會議に出席する代表者はいかなる團體、いかなる場所から來るべきであらうか？　次の如き要素の集まることが甚だ希望すべきことである。

1少ブルジョア急進婦人團体の代表者

私は精確に此種の婦人團体の數及び内容を知らないが、相應に存在し活動しつゝある事と思ふ。封建的重壓と戰ふ方面に於て、彼女等はなほ登場人物の一つである。

2少ブルジョア急進團體の婦人代表者又はかくの如き團體の婦人部の代表者

この團體は婦人のみの形成してゐるものでなく、男子と共に作つてゐるものを指すが、かくの如き團體より代表者の出ることが望ましい。例へば政治研究會の婦人部から代表者を送るといふ工合である。一體、何かの組織に入つてゐる婦人は、何等の組織にも入らない婦人に比すれば、それだけ進歩してゐる譯であつて、

殊に男子と共同の團體に入つてゐる人は婦人のなかの進歩的分子である。

3 婦人俸給生活者團體の代表者

所謂職業婦人の形成してゐる團體の代表者である。残念ながらこの組織は未だ我國によく發達して居らず、男子の俸給生活者の團結もまだ充分に確立して居らぬが、これらの團體に屬する婦人がこの會議に代表者を送ることは極めて望ましい。

4 高級の學校の學生代表者

日本の女子教育は極めて不完全であるが、既に高級の學校が數種存在してゐる。これらの學校の學生、又は學校內の學生團體の代表者がこの會議に參加することは極めて大切である。學生は年若く經驗に甚だ乏しいが、新しい知識の所有者であつて大衆としての學生の運動は頗る効果が多いのである。

5 勞働組合及び農民組合の婦人部の代表者

わが國では勞働組合のなかに組織されてゐる勞働婦人が約五千人はある。農民組合に入つてゐる農村婦人の數は明かでないが、頗る多數にのぼつて居り、これらの婦人は各地の農村で色々活動してゐる。勞働組合も農民組合も婦人部があつて、そこで色々の仕事をしてゐる。勞働組合に組織せられてゐる勞働婦人の數がさほど多くないのは遺憾であるが、現に組合に入つてゐる婦人たちは一種の先覺者と言つてもよく、言はゞ八十萬人の我國の賃銀勞働婦人の利益のための戰ひを代表する人々である。農村の婦人は或る場合に於ては男子よりも意志が強く、階級精神が激烈である。勞働組合及び農民組合の婦人部代表者はこの婦人代表者會議で最も重要な役割を果たすべきである。

6 工場及農村より適當の方法によりて選擧された婦人代表者

工場や農村から婦人代表者を集めることは非常に困難のように見えるが、そうでもなからうと思はれる。先般、大阪で印刷職工のストライキがあつた時にストライキ勞働者が大阪中の印刷工場の職工に向つて、印刷工代表會議を催すために代表者を送ることを求めたが、その成績は非常に良好で、勞働組合の少しもない工場からも續々代表者が集つたとのことである。組合のない工場や農村から婦人代表者が出て、大衆の生々した意思を發表したならば、この會議は非常に成功的なものとなるであらう。

日本現在の事情に照らして、この婦人代表者會議なるものは甚だ困難である。だから空想だと言つてしま

ふ人もあるであらう。婦人は今日の團體を作り、又は團體に加つて活動しようとしてゐる。この個々の運動を統一し、一定の方針を確定することは、組織的意味に於ても、教育的宣傳的意味に於ても、甚だ必要である。廣汎な婦人の各分野から代表者を集める此婦人代表者會議なるものは、婦人の今日の運動の程度から考へ、又、彼女等の覺醒の程度から考へて、甚だ困難を件ふが、困難なればそれだけ重要であり、更に封建的重壓と戰ふといふ婦人の廣汎な政治運動の使命から考へて、ぜひとも斯る會合は必要であらうと思ふ。而して此會合は主として婦人の政治的運動に關するものであるが、此外に社會的經濟的方面に於ける婦人の活動を討議し、重要な決議を作ることも必要であらう。

高藤五郎氏の公開狀より

（前略）私があなたに恨みを持つやうな譯があるかないかは、あなた御自身がよく御承知のことと信じます。私は、何だか狐にでもつまゝれて居るやうな氣がいたします。

一体、恨みを有つたり、江戸の仇を長崎で討つことを考へたとしたら、『奥さんの本願は婦人運動の批評家として、立派な素質を具備して居るのである』とか『その點に於て、何と言つても、奥さんは雑多の婦人中に一頭地を抽んでて居ると思ふ』とかいふやうな言葉が、どうして使へるのでせう。餘りに馬鹿々々しくなります。

私としては、あの婦人公論に書いた私の文章に惡意があるかないかは、少し文字を解する力のある人である限りは、妥當に判斷して具れると信ずるが故に、そのことに對しては、別に多くの言辭を欲しません。しかし、私の最もいやな、私憤を公開の場合にてもらすといふやうな（況んや私憤さへないものを）人間だとたとへ、一人さへも、たとへ一時でも思はれるだけが、忌々しくて、馬鹿々々しくて仕方がありませんから申上げるまでです。その點に於て、私は、あなたの『それ程大人氣ない人ではありますまい』といふお言葉を素直に（まはし根性を出さずに）受入れます。

ただしかし、私の恐縮に存じましたことは、あの政治研究會や聯合婦人會とあなたとの關係に對する敍述に於て私の說明が不十分であつたために（恐らくさうだつたのでせう）可なりあなたの誤解を招いたことです。どうか、もう一度御讀直しを願ひます。私は一言半句も、聯合婦人會との合同問題のことは書いてありません。あの合同問題のことに關しては聯合婦人會の側に對しても、本當に批評すべきことがあります。寧ろあの場合のあなたの態度の方に遙かに多くの賛意を表し得るのです………………後略

右は一月號にのせなければならないのでしたが、頁數の都合で、おくれました。

朝湯

榎本八十子

高い天井へ滕々と立ちのぼる湯氣を透して、晴れた朝の爽やかな光が靜かに流れ込んでゐる。

ザザツ、ザザツ、と汲んだり流れたりする湯の音を、何の憚りもない裸体の女達が馴れ切つた敏捷さでその喧しさを絕やさなかつた。

元旦だといふ意識を殊に强くその艷々と結ひ上げた島田や桃割れに見せた特殊な女達の中に入ると、佐代は決まつて、いつもの壓迫を身に感じた。一人で來る時にはそれ程でもないのだが、佐代をお伴のやうに連れて來る姉の榮子と一緖だと、きつとそうした氣持に落ちて行くのだつた。

『つまちやんはどうしてあんなに綺麗なのだらうね』

一人の年增藝者が、向ふ側の大鏡の前に坐つて、克明に白いものを塗つてゐる半玉に見とれて云つた。その廻りを取り卷く女達も繁々とその方を見やつて囁き合つた。美しい上にも美しかれと懸命に素肌を磨いてゐる女達のなまめかしい手先きと比べて、佐代は又、何といふ醜い自分の姿態だらうとぞうつとした。

婦人と新聞

◆**航空女學校の新設** 飛行家宗里悅太郎氏が經營してゐる神奈川縣鶴見海岸埋立地第一航空學校では、こんど女子ばかりを收容する航空學校をあらたに設けて、あくまで航空事業のために盡すと云ふ志操の堅い相當敎育のある若い婦人を先づ最初に第一期生として採用する。

◆**大谷派別院の捨て子小屋** 大連市の大谷派本願寺別院では、托兒所を開設するかたはら、捨子を引受けることになつたが、その方法が奇拔である。それは邸内に、拾兒小屋を造り、其の中にベットを備へ、傍に文箱を置き、その蓋を取ると、本堂のベルが鳴る、親が去ると本堂に赤い電燈がつく仕掛になつてゐてそれを見て寺の人が拾ひに行くわけである。

◆**『孃の家』** の設立、肉身の愛に見はなされてめぐまれない少女達を、暖い母性愛で育て、やりたいといふ『娘の家』と云ふのが今度小年保護婦人協會の手で

「佐代ちやん、見つともないわ、そんなにきよときよとして……」

素人の女と云つたら、佐代と姉の榮子の二人位しかゐない湯の中で、努めて取り濟してゐる榮子の視線が堪り兼ねて佐代に打つかつて來た。この世界の女達に劣らないだけに身を裝つてゐる姉の黒髮が、美事な丸髷に取り上げられてゐるに引きかへて、佐代の縮れたひつつめの束髮が、先刻から榮子の憎惡を募らせてゐるらしかつた。佐代はそれを知り乍ら故意に取り繕はふともしなかつた。

「お姉さんは藝者なんかと肩を並べて行かうなんて、恥しいとは思はないの、こんな人達の無智な美しさに兄樣が迷つてあんな騷ぎが持ち上るのじやないの、それだのに、お姉さんは藝者達と無意味な美を競つてゐらつしやるんだわ」

佐代は片意地にそんなことを考へ乍ら、しきりに彼女達の美しさに憧憬してゐるやうな榮子の瞳に皮肉な眼を注いだ。そうする度に佐代と榮子の冷い瞳がちかちかと出逢つた。

藝者や半玉達のやうに洗練された姿態を持ち合さない田舍出の佐代を、榮子は極端に卑しみ憐れむ風を露骨に見せて來た。佐代はその度に、無暗と身のすくむ思ひに蹴落されたが、すぐに、整理りもつかない荒んだ榮子夫婦の生活に心が寂しく流れていつた。

「お姉さんはそんなことに少しも氣がついてゐないのだ」

佐代の思惑が思ひもつかない重々しい方に沈んでいつたとも知らない榮子は、他の女達がすると同じやうに髮を掻き上げたり、順序よく細か

建設される事になつた。

◆婦人大學の初講座 婦人參政同盟主催の下に開講中の婦人大學法律講座は九日午後一時半から今年度の講座を始めた。場所は明治大學第四教室、講師は遠法、法學博士松本重敏、經濟學高田博士川中貢氏の外に法文學士赤神良讓氏の社會學が加はる由、聽講は無料。

◆殺された坑夫の妻 目下爭議中の別子銅山で、坑夫達の戰勝祈願の爲め婦人團が某所に行く途中、會社で雇つた壯士の爲めに、坑夫某の妻が殺されたと爭議團本部から、總同盟本部に入電があつた。

◆關西婦人聯盟 大阪市婦人職業紹介所主任井上一四子女史、婦人矯風會大阪支部長林歌女史等が、關西の婦人團體の大同團結に奔走し、大阪市內六十の諸團體に交渉の結果このほど大體の成案を得たので、去る十日同市中央公會堂で第一回關西婦人聯盟大會を開いた。その目標は、生活改善、社會奉仕、婦人問題の調査研究及各團體の相互の連絡と、その事業の援助等である。

い湯道具をそれからそれへと使ひ別けていつた。佐代にはとても眞似られさうもない巧妙な手際だつた。

安價生活を行火生活と間違へて平氣でゐるといつも榮子が笑ひ談にしてゐる隣家のお妾だといふ女が入つて來るのと入れ違ひに、佐代は榮子の先きに湯から出てしまつた。むせ返へるやうな樣々な香料の詰つた生溫い空氣には、佐代はいつまでも堪へてゐることは出來なかつた。それに早く榮子からも逃れ度かつた。

「雪の田舍へ歸らうか」

佐代は湯屋の門松に淡い反感と哀愁を殘し乍ら、敷石傳ひに露路を曲がると驅り立てられるやうにそう思つた。

雪の深い夜更けて、眞黑に煤けた風呂に一人で思ふ樣浸つてゐる時の靜かな生活が、佐代の心の眼にありありと浮んで來た。そこには、年老ひた兩親と、爺やとが平和に淋しく暮してゐる。そして、佐代の上京を涙を溜めて反對した戀人の須美もゐる。佐代が特殊な女達から意氣地のない脈迫に心を疲らせてゐる間に、須美は佐代の上を案じ乍ら、こつこつと農具の改良に頭を惱やましてゐる。

姉の榮子の生活が田舍で思つた程にしつかりしたものでなく、絕へず周圍の爲にぐらつかされてゐるといひ、義兄の素行が思ひ描いた程綺麗なものでないといふことが、佐代の勉學の志望を鈍らせたとは云へ、私立の學校の內容そのものに、佐代は最初から失望してゐた。

「上京て來るのじやなかつた」

◆產兒制限の出版物押收さる　府下淀橋日本姙娠調節相談所（小川隆四郎氏）では、出版法違反として「姙娠調節の知識」三千部、その他產兒制限に關するポスターや書物を押收された。警視廳側の說明に依れば、以前に、惡い個所だけを○○にして印刷することを命じて許可しておいたものを、一旦○○にした個所を再び活字にしてゐることが判明したからだといふ。

◆東京で最初の母姉學校　愛國婦人會の本所隣保館では、子供の敎育と同時に、母親の敎育も必要だといふので、母姉學校を初めた。最初、母の育兒についての簡單な知識を與へ、そのため講演會、展覽會、講習會などを開いて、次第に他の方面にまでも知識を及ぼしてゆく方針。

◆橫濱婦人會館の敷地も內定した　橫濱聯合婦人會では、婦人會館建設のために、全市から一口十錢の寄附を集めたのがつもつて、現在預金高二萬二千五百九圓七十錢ある。今度いよいよ敷地も內定したので假事務所を公園內公衆集會所

佐代の心の底でつぶやいてゐるものが、さうした悔いのものであつたことを、佐代は情なくて仕方がなかつた。それらの感情が、いちいち榮子達の生活に喰ひ入つて、反抗的になつて行くのを、佐代は判りと感じれば感じる程、善良だつた榮子のために惜しまれてならなかつた。

元日の朝の表通りは、いつもと全然違つた靜寂さだつた。佐代は頬のほてりを濡れ手拭ひでそつと押へ乍ら二階に上つた。

机の上に二三枚の賀狀と共に、須美の分厚い封筒が置いてあるのを見ると、佐代の眼の中には知らず知らず熱いものが込み上げて來た。

『須美が又、あの烈しい心を抑へ乍ら、彼自身落伍した都會生活を呪つてゐるのだらう』

榮子から離れて一人になつた氣安さから、佐代は靜に須美の純情をなつかしんだ。

が、數分の後、佐代は鏡臺の前にいつまでもいつまでも立ち竦んでゐた。



大正十四、十二、十五

内に設けて仕事をすゝめてゆくことになつた。

◆全國女子教育者大會 二月中旬又は下旬に神田青年會館で女子高等教育促進のため全國聯合の女子教育者大會の開かれる事は既報の通りであるが、全國各地から代表者八百人が參集することになり當日は澤柳政太郎尾崎行雄の二氏に演說を依賴する筈である。其の大會の主催側となるものは、

女子教育振興委員會、全國女子學生聯盟、東京聯合婦人會、全關西聯合婦人會、櫻楓會、佐保會、女子英學塾同窓會、櫻蔭會、至誠會、婦人平和協會、横濱聯合婦人會其他

で左記の三項を討議して議會を刺戟するさうである。

（一）女子高等教育機關の設置を促進する方法如何

（二）高等女學校を女子中學校と改稱し内容を向上改善すること

（三）教育に關する制度を勅令とせず法律を以て規定すること。

今日の感想

生田花世

美しいといふ事、これは男女を通じていかにのぞましい事であるか分らない。美しいといふ事は、おのれまづ樂しく、つぎには人の心を悦します。どこに、匂ほやかな乙女の顔を見ていやな心地のする人があらう、又、どこに爽かな青年を見ていとはしく思ふ人があらう。美はこの人の世の華である。美は人の心の甘いマナである。文學も繪も音樂もすべてのものが、そのそれぞれの表現によつての人間の美を描寫し、禮讃し、刻み出さうとしてゐる。いかばかり、美はのぞましく貴いであらう。かの感性の人の胸にはその初戀の異性といふものが、云ひつくしがたい美と、神々しい尊貴の幻影をもて虹のごとく空想の中空に漂ひ渡るであらう。心なき世のありふれた人々の美とみなすもの、それはあるひは、形態、輪廓にのみとゞまり、かの、通俗小說の中にいつも現れる美しき侯爵或は美しき富豪の令孃のやうなものでであらう。趣味深く、敎養すぐれた人の美とみなすものは、高い精神美を示す表情の無限の變化でもあらう、あるひは端正、靜謐のおごそかな一つの統一の存在でもあらう、おのづと人の心は美にむかひ、美に迷つて行かうとする。それがどうしてあやまりであらうか。

×

女でも、實に女でも美しい女の友を好む。

×

端麗な近代的な容姿をもつた私の若い美しい女の友は、その十七歲のときに私の知るかぎりでは二人の青年を迷はし、その十九歲のとき四人を迷はし、廿歲のとき三人を迷はした。そして彼女はその最後に云つた「私は誰れも愛してないのよ」こんな風にして彼女は愛を知らぬ。

×

美貌の價値は、職業婦人の職業上にとりわけ露骨にとりあつかはれてゐる。このごろ流行の店員――女店員などを雇用するところでは隱語で、その容貌の點取が行れてゐるといふことを、私の友のある百貨店に行つてゐた人がいつてゐた。勿論その美貌によつて給料もちがふし、昇進の方もちがふ。五人の客をひきつける顔、二十人の客をひきつける顔、百人の客をひきつける顔によつて、

評價されてゆくといふらしい。美しい私の友は、その百貨店の店員採用試驗に、そこへ出かけて行つたが、美貌甲上の理由をもつて、無試驗の採用で、世の中の甘さがしみじみ分つたと云つてゐた。然し、その後に、すぐ、支配人の戀慕になやまされて、おそろしくなつて田舍へにげて歸つた。

×

美貌の女の人生觀と、美貌をもたない女の人生觀とは表裏の差をもつてゐるのがおもしろい。

×

近代婦人運動の效果として約束されるところの婦人の自由、婦人の尊嚴、婦人の價値、それらはいづれも美貌の女の人生觀からはとほいものではあるまいか、因襲的美貌の諸恩惠を、男子の社會になげかへした美人たちでなければ、美人はけだし近代婦人運動に、緣なき衆生だといつてよいではないか。

×

然し婦人運動者たちの疲勞が、その肉体美をこわすのを往々にして見るのは、この過度期の痛恨事である。

×

十年前――さう――十年前、私が上京した時に比すると今の婦人たちはずゐぶん明るく生きてゐる、そして私なども明るくされてゐる、それだから、努力は、運動は一朝一夕事ではないともいへるし、それが云ひがたい樂しみであるともいへる。

雜談

鷹野つぎ

此のごろ身邊雜記のやうなものを他にも書いたので、何かそのへんの事を云つてみやうとすると甚だ投げやりな云ひ方ではあるが、あまり氣乘りがしない。それに私の身邊には取り立てゝ書くこともない、いつか創作上に身邊のことを取り入れることの意見を問はれたことがあるが、それは別として、ある時日に區劃つて何か興味的に、實際身邊のことを書くなどといふことは私にはむづかしい。たとへば特種な事件的な感じをえたとか、芝居を觀たとか、身になる讀書をしたとか、さういふことも考へてみると追つかけ追つかけ、その目をうるほしてくれてるわけではない。どうかすると私などには日課といふものがあつて、家事とは云つても近頃ではする仕事の

順序までがたいていは一定してしまつてゐる。長年のことでなるべく手順よくと心がけてゐるうちに、何時かさうなつてしまつたと見える。それでまたいつぱいに、通りいつぺんの仕事で日は暮れてしまふのである。

こんな事で私は今とりたてゝ、何か書きたいものもない。それに時々も思ふことで、近頃私たちの言葉といふものは、遙かに高い意味をもつてきたやうな氣がする。日常私たちが考へを表はす上に云つても、ある明らかに時代的な若しくはより眞迫する一線のやうなものがあつて、その平準以上を出る必要があるやうである。そのためにどれほどまた私などは無意味な章文の弊を、今だに固持してゐるかしれない。斯ういふ意味で私は時々自分の文が餘りにたゞごとに失するのを、怖れたい氣がするのである。

さう云へば近頃今氏の書かれた身邊のことなどは、私には感銘が深かつた。むしろ事件的なこと、他方面な交渉的な話柄などよりも、私はその內實した感じの起伏を面白いと思つた。尤も極めてありふれた日常の中にも感じ方の深度をもつた人には問題にならないかもしれない、しかし私たちの日常には書きたい、書かずにはゐられない、一種生活意識の鮮明な時機があるといふ事は信じていゝにちがひない。これは今の私の狀態を辯疏してみる氣持ちとしても、また餘りに日常生活のそれに沒頭してゐる點について考へてみてもいゝことかと思はれてゐる。

いづれにしても甚だ投げやりな云ひ方に相違ないが、事實今の私の身邊は淡々水のやうなものであると思つてみても差し支へないやうである。それに多少多忙であらうと、主婦、母としての日常は、どなたでも送られる、日常のそれに過ぎない、その中に私は自分なりにあれこれと心遣ひをしてゐるといふまでで、時に許されて机の前にでも坐つて居られゝば無上のことだと思つてゐるくらゐである。

それに目下は歲晚のことで、片ばかりの子供たちの春着に追はれて、終日裁板の前に坐る日が續いた。云はゞさうしたことなども私の日常を一層單化してくれるやうなもので、言葉にしてみれば一つ二つの無心の消息にも似てゐる。

何かしら云ひながら、つひ書いてきた。たゞ斯うした狀態の中にも徒らにその日を空過することだけは、責めたいと思つてゐる。

感情の感情論を警戒せよ

織田やす子

『女は理性にかつても、感情に缺けてゐては失敗である』と、さも物を識つた顔に現代女性心理を言つてのける世の識者といふものが、私には多く理解が出來ない。

女性は從來感情的であつた。然しそれは、女性としては、習慣や、輿論や、教育や、法律の强制のため、物をしいずにゐなければならなかつた結果、男性といふ、やたらに女性を玩弄したい生物の、むら氣や情慾を滿足させる道具たるより外には無能であつた境遇上習得せる傾向であつて、女性は感情的だといふことのなかには、美はしいことばかりは無く、盲目、愚鈍、阿附、僞善の含蓄が多分にある。最も母性の自然として愛情に濃やかであることも言はれやうが、否それが有力な論據となるのではあらうが、然し、私は今少し異つた組織の下の母性を想像して見る時に、女性は必ずしもいはゆる感情的でなくばならぬと云ふ理を疑ふのである。そして、その母性愛なるものも、もつと賢明とならねばならぬ必要をさへ感ずるのである。

□

又或る人は、從來女性の宗教的なりしことを以て、女性は感情的だと言はんとするかも知れない。私は、女性が從來宗教的であつたことを悲むものでは決してない。否々人權の殆ど凡てを剝奪せられた女性が、餘儀なかつたといへ、馬鹿な現世的な逸樂を追はずして、その情操と精進とを信仰にあつめたといふ一傾向は、女性の文化史上特に研究の價あることだと思つてゐるのみならず、世界の文化史上、亦、大に研究しなければならぬことゝ思つてゐる。然し此の論稿に於て私が言はんと欲する處は、その女性が、從來宗教的であつたといふことそれ自體、女性の天賦と言はんよりも、むしろ境遇の然らしめた傾向と言ひたいのである。その他、文學上から言つても、女性が純情的で、短形な文藝に秀でるの傾向のあるが如き、この立ち場から證言が出來ると思ふ。

『女性が感情に缺けては失敗だ』といふやうな教訓は、少しく內容を分けて言つてもらはねばならぬ。或る人に

は女は、何時までも暗愚でゐよともひゞく、感情が、女性の全所有能力ででもあるかの如くにもきこえる。そして、折角、少しばかり目ざめかゝつた女性の前におく無慈悲なつまづきの石とも感ぜられる。

男だつて或る種の感情に缺けてゐれば、恐らくその生涯は失敗であらう。女性は何と言つても感情だといふ、その感情とは、抑も何を意味してゐるか？友情とか、愛とか、希望とか、勇氣とか言つた感情は、凡そ人間たる者は誰でも所有してゐなければ、彼は人間としての成功を遂げえられぬであらう。何も女性ばかりに限つたことでは無い。

□

生命の四大特色とも目せられるものは、生長、品性、幸福、感化の諸力であるが、これ等の何れも微妙に交錯し作用し合つた複合性諸力の發現である。そして男子のみがこれ等の複合性諸力の發現にふさはしい主体では無い。女子も等しくその發現の主体である。

幾千年來の女性蹂躙の社會制度の結果、さなくとも狹量で一むきな女性が、少しく心境を開拓せんとして目ざめ來れば、『何と言つても女性は感情だ』と言つた男性ドグマが、至るところに女性の進路の女々しい防害をなすのである。女性が理知的になれば、情操は退化でもするかの如く憂ふる必要はない。勿論賢明なる女性は、ただ感情的な行動はしないであらう。或る種の曲線的姿態はしないであらう。賢明なる行爲を熱情的に、本氣に營むに至るであらふ。眞に燃えべきものに向つて燃えるやうな女性となるであらふ。これが或る種の男子に氣に入らないからとて止をえぬ。否よし男子全体に氣に入られたくともこれも止をえぬ。心境の開拓、强靭なる品性の陶冶にはげむその人間は、心の全活動が最も自然に行はれる理で、感情生活も自ら高まり强大にせらるべき筈だ。たゞこの意味の感情生活は、他人の氣に入られんがための媚でもなく隷でもなく、自在なる人間性の發露であることを記憶しなければならぬ。

□

要するに男性の考へ方を變化する努力の缺けたる處では、女性の新しき目ざめは、その最も平凡なるものが、最も異様に映ずるらしい。何時までも男子をのみ慰めて自分は慰められない女性ではない。男子をも慰め、亦自ら慰めらるべき女性である。同等の人格者としての男女の交渉は、男子が女子の氣に入るやうに自己をおし曲ぐる必要なきと同然、女子が男子の氣に入るやうに自己を

おし曲ぐる必要もない。女子自らの理想に從て行動し、人間共同の生活に堪へたる性情をかちうれば、生きるをうべし。然し造化の妙は、男子をして男子たらしめ、女子をして女子たらしめる。此の自然の領分を犯そうとする女性解放論者はないことだと思ふ。たゞ女子をして自らの生活を持たせて見るがよい、といふのである。

男子が人間たる女子を認め、女子が人間たる自覺に入るの時代に來るまでは、女子の天賦の性能の善美、最高の發達を妨ぐるが如き、感情の感情論に對しては警戒をしなければならぬ。

所感

前田つぎ子

左へ行つた時計の振子は必ず右へも行かねばならない。大河の流れも或所では渦を卷き、其處では水が逆に流れて居るかの樣に見えるが。これは單に物の一時的反動作用を表示して居るのであつて部分的の小逆流は結局大勢に從て同一方向に轉じなければなるまい。近頃の社會運動なども丁度此大河の中の一小逆流の樣な傾向を帶びては居ないで有ろうか。今は恰も反動時代に入て居るが之は一時的現象で、軈ては矢張大勢に從う樣になるで有らう。之は何も我國にばかり限られた事ではなく、否寧ろ世界的の傾向で、我國は其餘波を蒙て居ると見て差支へ無いかも知れぬ。社會主義、共産主義、曰く何、曰く何と可なり激越的、急進的、主義、思想がなかなか大聲に叫ばれて居た後を享けて此頃は妙に鎭靜狀態…凋落狀態…を示して來た樣に見えるが之が即反動時代に入て居る印であらう。

歐洲では、伊太利を筆頭に其他の國々でも、國粹主義的色彩がやうやく、濃くなつて居る。獨の社會黨英の勞働黨等何れも茲少しく聲を潜めて居る形ちで有る。米國にも亦一種の反動思想が流れて居る。我國でも社會主義とか社會問題とかいふ題目を掲げれば雜誌は飛ぶ樣に賣れた時が有つた。試みにそんな雜誌ばかり集めたら同月中發行のもので十何冊かになつた。處が昨年（大正十四年）頃になつては什麼か。而て歐米に於けると同樣に我國でも國粹的意見が迎へられる傾きが見へつゝ有る。其處で或一流の……殊に守舊派の人々は之を以て急激な思想は今や眞實凋落して了つた。そして我國の思想界も漸

く安定を得つゝあるのだと楽觀して居られる向きもある。或る有名な經濟學者の如きも斯んな意見を持つて居らるが實際左樣であらうか。思想界にも經濟界にも現に表はれて居る處は全く一時の反動現象で、社會運動の各方面に此影響を多分に受けて居る。社會問題と云ふものから決して切り離しては考へられぬ婦人問題の如きも、一時は可なり急進的な說も唱へられ等しく讀書界を賑はしたものだが之も近頃は餘り賑はぬ樣で有る。尤も之は自然の現象であるが、社會運動一般が反動思想に支配されて居る際に、單り婦人運動のみが此影響を受けぬ筈は無い。一般に就て保守主義の人が決して婦人問題にのみ新思想を持ち得る筈はないので有るから、此期に於て婦人運動に手づさはるゝ諸子達は、暫く隱忍自重して問題を研究し、步武肅々枚を含みて進む程の態度を取り、やがて來るべき時期の爲に充分に準備せられむ事を希望するのである。

奥さま病

千葉龜雄

新首相夫人若槻とく子さんの平生が、世にも珍しいものとして傳へられた。たゞ一人の若い女中を手助けに、朝から晩まで夫君の一切の世話を燒き、一日の政務に、綿の樣になつて歸る大臣を慰める事に心を砕く。

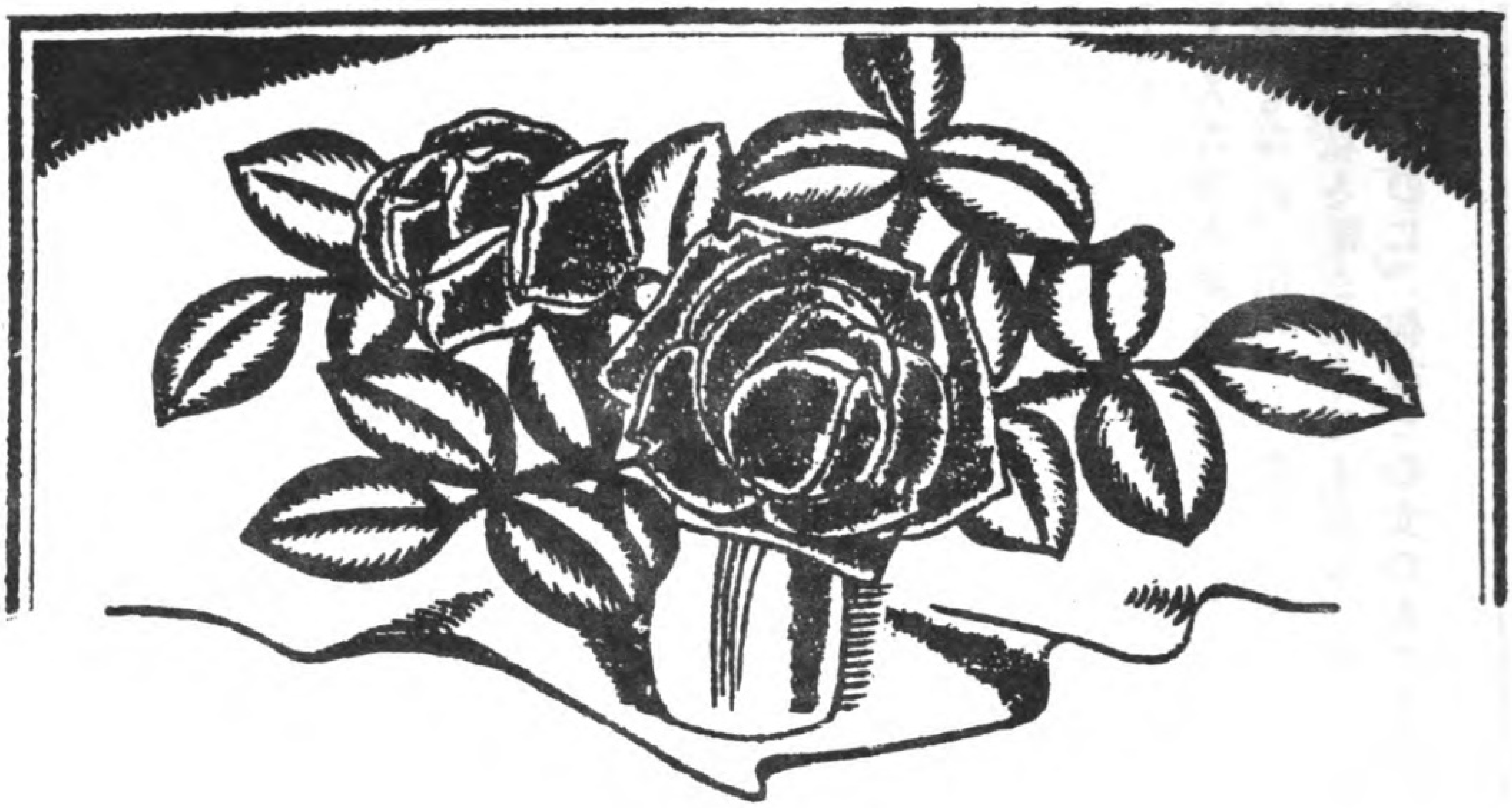
◇パリイ・フアニスの『ヴヰクトリア時代の婦人達』の中にある。彼が英國一大都市の市長で大會社社長たる紳士の私宅に泊つた。白いエプロンを掛け、袖をたくり上げた一婦人が、食事の給仕をする。臥床の世話をする。翌朝寢床へ來て湯が沸いたと告げ乍ら、窓かけを上げたり洗面盤に水を汲んだりする。

◇云ふ、『市長はもう仕事に出ました。娘は食事をして居ます』

『あの昨日の綺麗な娘さんが』

『あれは私の娘で、あれももう工場へ出て行きます。私の行かぬ日に代りをして呉れます』彼はすつかり、面喰つた。これが市長夫人であつた。夫人の一家の生活はいつもこれだつた。それを彼は『勞働婦人』の項目に入れて時代を語つて居る。

◇若槻夫人でも、この市長夫人でも、云はば當然な生活義務をやつて居るのだが、それが當然と見られずに、却つて特別な美談として感激を與へる。こゝに大きな時代病がある。中流若くはブルジョア階級の頹廢だ。



薔薇

ミューレン作
みち子譯

一株の薔薇がありました。この薔薇は、自分がどこで生れて、どこで育つたかも知りませんでした。花と云ふものは、その過去に、いやな想ひ出を持つてはいるが、その代り、未來の事を知る事が出來るものだ、と云ふ事はよく知られた事なのです。

一番はじめにこの薔薇の氣がついた事は、きれいな青々とした芝生のまん中に立つて居る事でした。そして薔薇の片方の側には、しなの木の枝を透して大きな白い石の建物の光つて居るのが見え、別の方の側には、高い格子の門越しに、街道が見えて居ました。

この薔薇を大切に世話をするのは、やせた丈の高いをぢさんでした。そのをぢさんは、薔薇の、みづみづしい枝のまはりに木の皮を集めて肥料をやつて、乾いたその根を濕ほしました。

薔薇は、きれいな赤い花の蕾をそつと包み乍ら、この

をぢさんに心からお禮を云ひました。

『私にきれいな花を咲かせようと思つて、いつも親切に世話して下さるのね。その御禮にうんときれいに咲いてお返しするわ』

　すると、そのをぢさんは頭を振つて、

『かあいゝバラさん。お前さんのきれいな姿を、病氣でねている俺の女房に見せてやる事が出來たらなあ！。だが、お前さんは俺のもんぢやないから、そんな事あ出來ねえ』

『私がをぢさんの物ぢやないんだつて！』

　ばらはびつくりして、叫びました。

『私を一番大切に世話して吳れる人の物ぢやないのだつて！骨を折る人のものぢやないんだつて！ぢやあ、私は一体誰のものなの？』

『あそこに住んでる金持の婦人のものだ』と、をぢさんは、木の間越しに見える白い立派な建物を指ざして答へました。

『そんな事がある筈はない。私は未だ、その女の人を見た事もない。第一、一度だつて、水をもらつた事もなければ、私を植ゑたのでもなく、枝を、つめても吳れやしない。だのに、何故その女の人のものだつて云ふ事が出來るの？』

『その女の人は、お前さんを買つたのだよ』

『そりや違ひます。貧しい女の人たちが、うんと働いても澤山のお金を取る事が出來ないのに、私が金持の女のものだつていふわけがないわ。あゝさうだわ、きつと、私の花の半分位は、そのお金持のものなんだわ』

　をぢさんは之を聞いて、悲しさうに、けれどほゝ笑み乍ら申しました。

『かわいゝバラさん。お前は世間の事を何にも知らないのだね。俺は、世間を見て知つてるが、その女の人は指一つ動かさないでも、お金を儲けるのだよ』

『ぢや、どうやつて儲けるの？』

『その女の人は、大きい工場を持つて居て、數へきれない程の勞働者を使つて、そこからお金を儲けるんだよ』

　ばらはそれを聞くと大變怒つて、枝を高く振り上げ、刺を逆立てゝ、をぢさんをびつくりさせる樣な見幕で、叫びました。

『をぢさん。私はまだ小さくつて、世の中の事を何にも知らないから、話して頂戴。私はそんなにわからずやぢやないから、私は蟻や蜂を見ました。そして蟻や蜂の世界では、働いてるものに、何もかもが屬して居るのを知

つています。』
『蟻や蜂の間では、さうなつて居るがね』
とをぢさんは、深いため息をつきました。
『人の世の中ではね。何もかもが皆金持のもので、働いてる大勢の人達は、やつと飢え死にしないだけの生活の費用しかもらつて居ないんだよ。金持だけは、きれいな邸を建てる事も、美しい庭を作る事も、花を買ふ事も出來るのだよ』
『それが本當の事なの。をぢさん』
『本當とも』

をぢさんが仕事をしにそこを立ち去つたあとで、ばらは深く考へ込みました。今のをぢさんの話を長い事、考え込んでる内に、やさしいばらの心がだんだん荒くなつて來るのでした。

その時丁度蜂が尋ねて來たので、ばらは荒々しく聲をかけました。いつもは、ばらは大變やさしいので、まだ若くつて臆病な蜂は、びつくりして、大急ぎで、飛び去つてしまひました。

ばらは仲のいゝ蜂に、をぢさんの話した事が本當かどうか尋ねたかつたので、遂、荒々しく呼びかけて、逃がしてしまつたのを殘念に思ひました。

いつの間にか又ばらが考え込んでゐると、急に枝を震はすものがありました。
『若し若しばらさん。何の夢を見ているんだい?』といたづらつ子らしい聲がします。

ばらは、數多いその眼を上げると、風が立つてゐました。風は長い髪を吹かせ乍ら、笑つて居ます。
『おゝ風さん。風さん。丁度、あなたを呼びたいと思つてゐた所だつたの。をぢさんの話した事は本當なの』と、ばらはさつきをぢさんから聞いた話を、風に話しました。

話を聞いた風は急にまぢめになつて、ばらがふるえる程激しく口笛を吹き立てゝ云ひました。
『さうだ。それは皆な本當だ。そしてそれよりやあもつともつと悪いんだ。僕はこゝへ來るまでに、そこら中を吹き廻つて、間違つてる事を澤山見て來た。時々僕は、腹立ち紛れにうんと、吹きまくつてやるんだ。すると金持は「大變、大變、何て嵐だらう!」つて云ふのさ』
『ぢや、金持は、何でも思ふ樣に買へるの』
『さうだとも』

風はうめく樣に云つたかと思ふと、急に笑ひ出して、
『だが、彼奴等は、僕をつかまへて、閉ぢ込める事あ出

ない。僕は貧しい人たちの友達だ。僕はどこの國でも吹きまはるよ。大きな町へ行くと、僕は、いやな臭のする穴藏の前に立どまつて、

自由を與へろ！正義を與へろ！つてうなるんだ。それから働いて疲れきつてる人達の所へ行つては、子守歌をうたふのだ。

勇敢になりませう！。
皆、一緒に手を執つて
さあ鬪ひへ！鬪ひへ！
最後の勝利は、我等のもの！。

すると、勞働者（その人たちは、仲間の人達が、さうゆうのだと知つて、新しい力を持つ事が出來る』

風はさう云ふと、庭の草を、ゆり動かして笑ひました

風はなほ、續けます。



"She Will Get Well"

『金持は、僕があちこちへ、金持のぜい澤振りを、知らせて歩くので、閉ぢ込め様とする。すると、僕は、金持に、こんな風に吹いてやるんだ。夜になつて、金持ちがねている部屋の窓を、ガタガタ云はせる、びつくりした金持どもは、柔かいね床から飛び起きる。そこで僕は、

「ホホー。なまけものたちよ。お前たちの最後の時が來たぞ。世界の勞働者の爲に、部屋を明けて、用意して置け！」

と叫ぶとね。金持どもは、皆おどろいて、絹の布團を、頭からひつかぶつて、「何だ、只風の音ぢやないか！」と獨言ち乍ら、一生懸命、自分を慰さめやうとするのさ』

風は語り終ると、美しい白い建物にむかつて片足を高

く揚げ身体中の力を籠めて、吹きつけました。と、窓がガタガタ云ひはじめ、部屋の中にある色んな器物がこはれ、女の人の金切聲が聞えて來ました。風は笑ひ乍ら、その片足をおろしてばらにむかつて、申しました。

『バラさん、あなたも、又、貧しい人の爲に味方する事が出來る。あなたは、なまけ者の金持の爲に咲いちやいけないよ。果物の木は、ならない理にはいかないが、あなたは、只かわいがられる、なまけ者の植物だ。一日中まつすぐに突つ立つているあの、チューリップを御覽。いつも只、

何て私たちは美しいだらう！

つて云ふより外に、何の用も樂しみもないんだ』

ばらの花瓣は、自分の姉妹のチューリップの爲に、恥かしさで、赤くなりました。

ばらの樣子を見てとつた風は、ばらを元氣にさせやうと思ひました。

『あなたはよく物の解つた、親切なばらだ。僕は時々尋ねて來やう。お別れのしるしに、花瓣を一つ、呉れませんか』

風は、さう云つて、一枚の眞紅に燃える花びらを、とりました。

『幸におなり、ぢやさようなら』

丁度この時でした。きたない着物を着て青ざめた、顏色の子供が二人、道をやつて來て門の前に立ちどまりました。

『おう、何てきれいなばらだらう』

一人の子は、ばらを見つけると、喜ばしさうに叫びました。

もう一人の小さい女の子は、門の外から、欲しさうに、手をさしのばしました。

それを見た、ばらは聲高く、

『風さん。風さん。』と呼びかけました。

『飛んで行つてしまふ前に、この子供達の前へ、私の一番きれいな、花を二つ、落して下さいな。でも、花びらを、おつことさない樣に氣をつけてね』

『僕が、そんなに不器用だと思ふのかい。』

風は、怒つたやうにつぶやき乍ら、二つのきれいなばらを、子供たちの前へふわりと落しました。

子供たちは、喜んで叫びを上げました。風は靜にふき去り、ばらはその子供たちのうれしさうな樣子を見て、心から喜んでゐました。

けれどけれどばらのその喜びも、長くは續きませんで

した。急に怒り聲が、子供たちの上にひゞいたのです。
『何て恥知らずだらう。人の庭から、花を盗むなんて！』
ばらは、紺づくめの女の人が、指輪の幾つも光る手で、子供を脅かすのを、見ました。女の人の、すべすべした顔は、怒りで眞赤になつてゐます。子供たちはびつくりして叫び乍ら、かけ去りました。

ばらが、憤りの爲に、呼吸が荒くなると、その快い香りが、女の人の方へ、香ひました。女の人は立ち閉がつて、

『まあきれいな花だこと、これは私が摘んだ方がいゝ。でないと、貧乏人達が、街から來て盗んでしまふに決つてるもの。私がこんなに、金をかけて作つてゐるものを、外の人達にとられてたまつたものぢやない』

これを聞いた、ばらは怒つて、赤い花を益々まつかにしました。

『もし、私が風のやうに、强かつたなら、この惡い女の人をつかまへて、聾になり、盲になるまで、刺してやるのだのに。廣い庭に澤山きれいな花を持つて居乍ら、たつた二つほどの落ちたはらを、子供が拾ふのを怒るなんて人があるものぢやない。でも御婦人暫くお待ち、お前さんには、一つだつて私の花をとらせないよ』

女の人が花を摘もうとして、身を屈めた時、ばらは、丁度猫が、ちよつかいを出すやうに、刺を立てゝ、顔の前へ、枝をつき出しました。

女の人は聲を立てましたが、折らうとするのをやめませんでした。ばらは、精一杯に刺を逆立てました。女の人がまた手をのばした時、大きな尖つた刺が、とうとう、づぶりと、手を刺してしまひました。

女の人は、いまいましさうに、さけた着物と、ひつかゝれてよごれた手を抑えながら家へかへりました。

ばらは、この苦しい爭ひに、疲れきつてしまひました。青々した澤山の腕は、ぐつたりし、花の色は褪せて、弱々しいため息をもらしました。けれども、ばらは、もつと强い決心をしました。それは、たとへ、自分の枝や花がどんなにならうとも、大勢の働いてる人たちの爲に、どこまでも戰はうと云ふ決心でした。

夜更けると、再び風が飛んで來ました。ばらは、眞面目に、眞劍に、

『聞いて下さい。兄弟。私はあなたの忠告に從ひました。私はもう、なまけ者のためには咲きません』

と語りました。

風は、やさしくばらの葉や花をなで乍ら、しんみり

云ひました。

『貧しいバラさん。あなたは力を持つたから、きつと大きな仕事にも、耐えられるだらう』

『えゝ、さう思ふわ。私は力が持てると思ふけれど、それには、あなたが毎日「自由」の歌を唄ひに來て下さらなければいけない。

さうすれば、私はきつと、いつも勇氣を新にする事が出來ますわ。』

風は、毎日來て、「自由」の歌を唄ふ事を約束しました。

それから、ばらには惡い日が續きました。水を飲むことも、花を咲く事もやめました。水入を持つて、あのをじさんが來た時、ばらは、自分から小さいその根を閉ぢて、一滴も通すまいとして居ました。

なんと云ふ我慢づよさでせう！。

ばらは、自分が病氣になつたと思ひました。

日が照ると、一刻ごとに、益々かわいて餘計に水が欲しくなりました。夜になつても我慢し續けて、冷たい、尊い滴を避けて、また、かわき續けました。耐えきれなくなつた時、丁度、風が飛んで來て、靜に、やはらく、扇ぎ乍ら、

『勇敢におなり。勇敢に。

きつとあなたは勝つ事が出來る』

と、「自由」の歌をうたふのでした。

そんな日が過ぎて行くうちに、ばらは、輝く白い建物の中に住む人たちは、何でも欲しいと思ふものが、手に入り、道を歩いてゐるやせた、青い顏の人たちは、いつも疲れきつて、悲しさうで、欲しいものも、何一つ買ふ事も出來ないのだと云ふ事を、知りました。

そしてこの事は、ばらの心に、又新しい鬪ふ力を持ち來しました。

ばらは、段々惡くなり、だんだん弱つて行きました。枝はだらりと力なく垂れ、花はつやゝかな花びらをしぼませ、葉はちぢんで、黄色くなつて來ました。

やさしく世話しているをぢさんは、それを見て悲しさうに、云ふのでした。

『情ないなあ、俺のかあいゝバラがこんなにしほれちまつて』

そして、知つてる限りの色々の方法で、助けやうとして見ましたが、どれも駄目でした。

ある朝、そのバラは、美しい花の代りに、憐れな枯葉になつて居りました。

枯れ凋んだ、ばらの枝や花は、もう美しい庭の、邪魔物になつてしまひました。
　金持の女の人は、ばらをこいで捨てる樣に云ひ付けました。をぢさんがしをしをと、ばらをもぎに來た時、ばらは殘つた力を集めて、哀願する樣に、さゝやきました。
『私ををぢさんの內へつれてつて下さい。ね、どうか、つれてつて下さい。』
　それを、聞いたをぢさんは、ばらの願ひを聞き入れて花瓶にさして、貧しい小さな自分の家へ、つれ歸りました。內にはをぢさんの病氣の妻が、床の中に、ねていました。
　ばらを見ると、
『おゝまあかわいさうに。私と同じ樣に病氣なんだね。でもお前さんは、私たち二人がきつとよくなる樣に、看とつて、與れるに違ひない』
　しほれた葉や花は、水！　水！とうめきました。聞きつけたをぢさんは、水さしから水をそゝぎ入れました。
　おゝ、まあなんと云ふおいしい事でせう！　根が水を吸ひ上げると、枝全体に、快い滋り氣が流れて、新しい生命を湧きかへらせました。そして次の朝は、垂れた枝をまつすぐに延ばすことが出來たので　病氣のをばさんは、子供のやうに喜んで、
『まあ、まあ、ばらはすつかり快くなりましたよ。』と叫びました。
　ばらは全くよくなりました。間もなくもとのやうに美しくなつて、庭に居た時のやうな香を、貧しい小さな部屋一杯に漂はせました。
　をばさんの青ざめたほゝに、日一日とあかみが出、元氣になつて來ました。をばさんは
『ばらが私をなほして與れたんですよ』
と云ひました。この言葉を聞いた時、ばらは枝中の花を益々、赤く美しく染めて喜びました。
　をぢさん、をばさんは親切な人達でしたから、自分たちの部屋には少しのばらを殘して、丁寧に別けた花を、外の寂しい部屋に、疲れきつて休んでる、人々にわけました。
　ばらは、なほ外に魔術的な力を持つて居りました。ばらは、その鬪ひと我慢とを續ける間に、風の歌を習ひました。
　今、貧しい人たちの部屋へ來たばらの花は、多くの友達に、むかつてその風の歌を歌ふやうになりました。
『皆、一緒に手を執つて、鬪ひへ、さあ鬪ひへ！

最後の勝利は我らのもの！』
それを聞く人達は、皆申しました。
『なんて奇妙なんだらう！この花の香は、俺たちに、元氣をつけて！さうだ。俺達はもつといゝ世の中を作る爲に、さあ鬪はう！』

ばらは、更に小さい子供達にむかつて、やさしい、かわいらしい聲で云ひます。
『小さい子供達！あなた方が大きくなつた時には、もうあの門の前に、悲しさうに立たなくてもいゝでせう。世界中が皆、働く人のものになります。この世界中が！』

——終り——

山川菊栄氏の『無産政黨と婦人の要求』は、ぜひ一讀していたゞきたいと思つたので報知新聞から轉載しました。ちよいちよい筆を入れたり、削つたりした個所もありますが、本誌のためにすべてを快く許して下さつた山川氏に深く感謝いたします。

婦人の政治運動は、どうしても無産政黨の運動として進んでゆくのでなければならないといふことは、少しく婦人大衆の生活に卽してものを考へる人ならば、誰だつて異論をさしはさむ餘地のないことです。もうわれわれの間から勇敢な婦人政治運動が起つて來ていゝ時ではありますまいか。

前號十八頁の、女子學生聯盟の逆委員としては、一委員としての誤りです。筆者横山千代子氏にお詫びをします。

爲藤氏の公開狀も、時機を逸してしまつた今では變なものですが、一月號の校正の最後に、どうしても仕末がつかなくなつて次號まはしにしたのでした。氏に謹んでお詫びを申上げると共に、これから後もぜひ從前通りお心添下さいますやうにお願ひ申上げておきます。

豫約出版

全部十二册
一ケ年完了

短期締切
至急由込あれ

全十二冊。毎月一回發刊▼菊判紙裝一冊三百五十頁内外▼三月中旬第一卷配布。十六年二月完了▼會費毎月拂金貳圓。全部一時拂貳拾貳圓(郵送本社負擔)▼會員に限り頒布し一部賣りをせず。

社會問題講座

時代に眼ざめたる婦人は此大講座によつて生活の指標を得よ!。

趣旨

時代の一大轉換期、一大改造機は刻々に迫つてゐる。眼ざめたる婦人は、先づ此の大講座によつて現代に生きる資格を得なければならぬ。婦人問題を始め、最も緊切にして須要なる社會問題の一切は、極めて明快に極めて平易に講述されてある。

◆ ◆ ◆ ◆

講話目次

總論

◇社會問題總論……安部磯雄

社會思想解說

◇ギルド社會主義……北澤新次郎
◇基督教社會主義……賀川豐彥
◇無政府主義……新居格
◇サンヂカリズム……石川三四郎
◇マルクス派社會主義
〔マルキシズム概說……高畠素之
〔價値論……櫛田民藏
◇社會思想發達史……波多野鼎
◇日本社會主義史……木村毅

財政學

◇法律と階級鬪爭……平野義太郎
◇治安維持法其他……濟顯一郎
◇財政學概論……大内兵衞

勞働問題

◇日本勞働運動發達史……赤松克麿
◇日本勞働運動の現勢……村島歸之
◇各國勞働運動發達史
◇各國勞働運動の現勢 }……產業勞働調査所
◇勞働組合論……野坂鐵
◇日本の勞働事情……村島歸之
◇國際勞働問題……淺利順四郎
◇インタナショナル發達史……青野季吉

◇教育に於ける國家的と社會的……長谷川如是閑
◇ブルヂョアカルトプロレツトカルト……平林初之輔
◇各國勞働者教育發達史……服部之總
◇勞働組合と勞働者教育……阪本勝
◇セツルメント……大林宗嗣

社會文藝

◇無產階級文藝論……藤森成吉
◇社會と文藝……菊池寛
◇重農主義藝術論……生田長江
◇社會主義小說解說……木村毅
◇ロシヤ無產階級文學……片上伸
◇上部構造としての近代文藝……平林初之輔

大正十三年十一月二十二日　第三種郵便物認可
大正十五年一月三十日印刷納本
大正十五年二月一日發行（毎月一回一日發行）
婦人運動　第四卷第二號
【定價二十五錢】

